

平成 24 年度
足立区桑袋ビオトープ公園解説活動報告書

(株) 自然教育研究センター

目 次

I. 平成 24 年度の活動

長期目標	1
中期目標	2
1) 平成 24 年度の重点的な取り組み	3
2) 来館者数と対応者数の動向	4
3) インタープリテーション業務	6
① インタープリテーションの方針	6
② 具体的なインタープリテーション活動	6
③ インフォメーション、レンジャートーク	7
④ 導入型プログラム、発展型プログラム、その他のプログラム	8
⑤ 特別企画展示「はじめよう手のひらのビオトープ」	20
⑥ 団体対応	21
⑦ 展示（館内・館外）	25
⑧ 図書コーナー	29
⑨ 教材開発（ワークシート、スライドなど）	29
4) 区民協働型運営の展開	31
① 区民協働型運営の概要	31
② 公園管理ボランティアの活動とその成果	32
③ ビオトープ公園サポーター制度	34
④ 提案型ボランティア制度	34
⑤ 飛び込み型環境管理ボランティア	35
⑥ ビオトープ公園ジュニアレンジャー	35
5) 環境管理業務	37
① ビオトープの基本概念	37
② 当公園における環境管理の考え方	37
③ 実際の活動	38
6) 広報活動	41

長期目標

「桑袋ビオトープ公園を拠点とした持続可能な地域づくり」

公園の生物多様性について、区民が主体性をもって学び守る公園にします。そのことを通じて、公園内だけではなく、その地域全体が、自然と共生する持続可能な環境になることを目指します。

①区民が育てる公園、公園と育つ地域と人

ビオトープ公園で育った公園ボランティアや子どもなどが、さまざまな地域の緑地保全活動の担い手になっています。

②子どもから高齢者までの学びと充実、安らぎの場

公園内では、地域住民の目が行き届き、子どもも高齢者も安心して、遊び、学び、安らいでいます。

③足立の生態系を守る情報拠点

地域の生物多様性保全に関わるノウハウや情報が領域を超えて集積・発信されています。

④全国区で有名な公園

公園での取り組みが広域で評価されて、ビオトープ公園が足立区民の誇りになっています。

中期目標

「積極的に活用される

魅力・活力のある都市型ビオトープの管理運営」

長期目標に掲げるような、公園と地域の関係を築き、公園の価値を獲得していくために、各業務に3年をめどとした中期的な目標を立てて遂行していきます。

①環境管理の一元化による生物多様性保全と都市公園の融合

公園自体のハード面での価値を高めるために、生物多様性保全と、公園の魅力の演出・創出が重要です。また、当公園は、単一での生態系保全機能には限りがあります。そこで当公園を単なるビオトープとしてではなく、地域のビオトープネットワークを形成していくための情報発信基地と位置づけます。

②解説業務（IP）における区民サービスと普及啓発のバランス

公園自体のソフト面での価値を高めるために、弊社は、良質な普及啓発活動を行なう自信を持っておりますが、公園利用者数が少なくは、普及啓発活動を効果的に行うことができません。一方で公園利用者数増加のみを考えて、人寄せイベントを多発しても、桑袋ビオトープ公園の社会的役割を果たしたことはありません。公園利用者を増やすために、区民が喜ぶサービスをしながらも、質の高い普及啓発を行なっていくバランスを図ります。

③多様な区民協働形態の実現

区民協働型運営は、当公園の運営の主軸といえます。自然環境に対する区民の意識の高まりを受け止める場として、さまざまな生活スタイルやニーズにあった区民協働形態の多様化を進めます。区民協働型運営は、公園の強力なサポーターを持つことでもあり、彼らの口コミによる集客力は計り知れません。

④地域や関連施設との連携の多様化

区民協働と同様に、地域や関連施設と連携しながら管理運営を行うことは、両者にとって、相乗的な効果を及ぼします。

⑤広報活動の効率化と新たな広報手段の開拓

当公園においては、立地条件をのりこえて、来園のための一歩を踏み出してもらえるような広報活動が重要です。広報資源を的確に捉えた上で、ポスター設置や、出張PR、報道課との連携、全国的なイベントへの参加など、効率の良い広報を心がけます。

1) 平成 24 年度の重点的な取り組み

①新規プログラムの充実による参加者数確保とメディアへの露出増加

23 年度に実施した導入型プログラム、発展型プログラムともに、定員に達しないものが多数ありました。その要因として東日本大震災の影響に加え、プログラム自体のマンネリ化も主要な要因であることが考えられました。

そこで 24 年度は、人気プログラムも含めて既存プログラムを封印し、大多数を新規プログラムにすることでマンネリ化を解消し、新規参加者やリピーターの増加、さらにはメディアへの掲載件数増加をねらいました。

②安定的な展示更新による公園の魅力の PR

23 年度は、特別企画展に際し、館内の生体展示を大幅に充実させることができました。また野外展示では、ドロバチハウスを 2 基設置したほか、約 20 基の野外解説板を作成、設置しました。このほか、提案型ボランティア「この木この花なあ〜に？」により、樹名板を 60 基以上設置しました。それにより解説員がいない場合でも来園者に自然情報を提供できるようになりました。

24 年度もひきつづき、公園の魅力を伝えるために、野外展示をさらに充実させるとともに、夏休み期間に実施予定の特別企画展示に合わせて、来園者の関心を強くひくことのできる安定的な展示の充実を図りました。

③情報発信の拡充（ニュースレターの復活、ホームページの充実）

23 年度は、「あだち自然の遊び場」の事業の一環として、4 館合同イベントガイドや、スタンプラリー、出張 PR、ホームページにより一定の PR 効果を得ることができました。一方で区外へ広がる広域的な PR という点では、十分とは言えませんでした。

24 年度は、ビオトープネットワーク形成のための情報発信基地としての役割を充実させるために、イベントガイドよりも情報発信効果の高いニュースレター（カラー刷）を復活させました。また、ホームページの更新頻度を上げ、情報量の充実を図りました。また夏休み期間に実施予定の特別企画展を区制 80 周年事業と位置付けて、相乗的な PR 効果をねらいました。

2) 来館者数と対応者数の動向

今年度の延べ来館者数は 32,795 人でした（表-1）。弊社が目標としていた 30,000 人／年に対しては約 110%の達成率でした。昨年度は、東日本大震災の影響もあり 27,055 人と、年間目標来館者数 30,000 人を達成できませんでしたが、今年度は来館者数が昨年度に比べ、約 6,000 人増加しました。

開園から 8 年が経過し、徐々に公園の知名度は上がってきていますが、現状でもまだ公園を知らない区民、知っていても足を運んだことのない区民も多いと考えられるため、今後はビオトープ的な環境管理を進めると同時に、区民のニーズに合わせたプログラムの実施や自然体験の場を提供すると共に、それらを積極的な広報活動によりアピールすることで公園の認知度を高めていきたいと考えています。

表-1 来館者数および対応者数の月別推移

平成24年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数													
大人	1011	1109	1767	1293	1081	997	1239	830	258	341	367	713	
子ども	1632	2097	3168	2860	2452	2186	2211	2060	518	644	881	1080	
計	2643	3206	4935	4153	3533	3183	3450	2890	776	985	1248	1793	32795
対応者数													
大人	814	965	1601	1200	974	879	1180	798	238	395	327	763	
子ども	1718	2070	2770	2370	2589	1883	2117	1861	691	918	847	1185	
計	2532	3035	4371	3570	3563	2762	3297	2659	929	1313	1174	1948	31153
入館者前年比	274%	127%	108%	110%	131%	140%	153%	113%	59%	112%	0%	0%	133%

平成23年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数													
大人	454	1058	1640	1127	914	796	904	856	503	364	502	682	
子ども	509	1463	2892	2647	1774	1480	1349	1710	821	517	838	1255	
計	963	2521	4532	3774	2688	2276	2253	2566	1324	881	1340	1937	27055
対応者数													
大人	682	926	1511	1080	845	646	770	896	543	395	480	735	
子ども	719	1475	2473	2344	1799	1281	1365	1522	1025	802	844	1395	
計	1401	2401	3984	3424	2644	1927	2135	2418	1568	1197	1324	2130	26553

平成22年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数													
大人	936	2155	2118	1287	939	777	1252	1233	645	636	782	248	
子ども	1268	2775	3350	2298	1556	1184	1803	1477	591	465	683	257	
計	2204	4930	5468	3585	2495	1961	3055	2710	1236	1101	1465	505	30715
対応者数													
大人	766	1884	2179	1323	849	754	1216	1233	529	542	873	281	
子ども	1257	2451	3298	1875	1596	1199	1776	1473	576	404	784	241	
計	2023	4335	5477	3198	2445	1953	2992	2706	1105	946	1657	522	29359

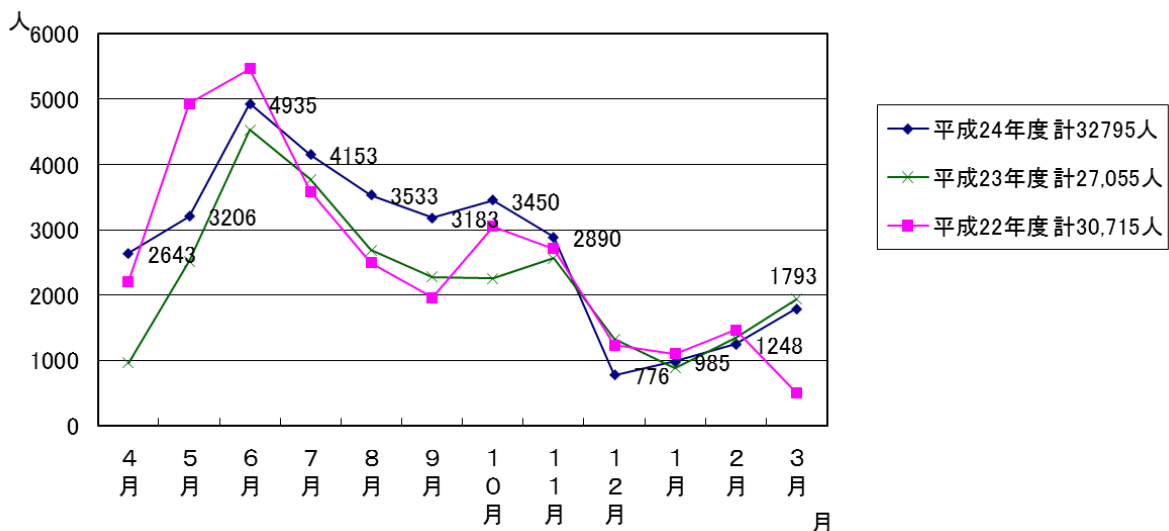


図-1 来館者数の月別推移 経年変化グラフ

表一 2 対応者数の詳細

月	対応者数			インフォメーション			レンジャートーク			プログラム				団体利用				区民協働型事業		
	大人	子ども	合計	大人	子ども	合計	大人	子ども	合計	回数	大人	子ども	合計	回数	大人	子ども	合計	回数	大人	合計
4	814	1718	2532	187	279	466	460	850	1310	106	88	546	634	8	50	43	93	7	29	29
5	965	2070	3035	175	298	473	467	811	1278	86	210	724	934	13	92	237	329	5	21	21
6	1601	2770	4371	160	299	459	483	700	1183	85	222	840	1062	19	718	931	1649	6	18	18
7	1200	2370	3570	215	291	506	505	779	1284	116	335	1105	1440	13	120	195	315	5	25	25
8	974	2589	3563	207	362	569	368	968	1336	157	331	1175	1506	5	56	84	140	4	12	12
9	879	1883	2762	157	256	413	351	650	1001	107	205	751	956	10	138	226	364	8	28	28
10	1180	2117	3297	146	204	350	428	577	1005	94	120	469	589	15	455	867	1322	8	31	31
11	798	1861	2659	132	190	322	308	488	796	85	70	441	511	13	263	742	1005	7	25	25
12	238	691	929	44	87	131	115	246	361	78	33	211	244	6	21	147	168	6	25	25
1	395	918	1313	97	153	250	213	400	613	85	31	252	283	7	28	113	141	7	26	26
2	327	847	1174	56	94	150	163	233	396	96	42	277	319	10	44	243	287	6	22	22
3	763	1185	1948	117	94	211	299	415	714	107	48	368	416	10	271	308	579	7	28	28
合計	10134	21019	31153	1693	2607	4300	4160	7117	11277	1202	1735	7159	8894	129	2256	4136	6392	76	290	290
平成23年度	9509	17044	26553	1998	2463	4461	4380	6585	10965	826	1491	5352	6843	77	1357	2644	4001	85	283	283
平成22年度	12429	16930	29359	2689	2332	5021	5732	7601	13333	621	2168	5168	7336	70	1569	1828	3397	76	269	269

3) インタープリテーション業務

① インタープリテーションの方針

当公園でのインタープリテーション（自然解説）には、「ねらい」を明確にした上で、来館者の関心に訴えかける方法（プログラム）が必要とされます。プログラムは断片的にならないようにし、環境教育の全体像における位置づけ（ポジショニング）が意識されなければなりません。

当公園は、近隣住民による日常的な利用も多く、自然環境や生き物について関心の度合いも様々で、意識レベルに応じたプログラムが求められます。また小学校等の校外学習などによる団体向けの対応も求められます。インタープリテーション（解説）業務を中心とした桑袋ビオトープ公園での環境教育活動は図-2のようになり、それに応じて以下のような具体的なインタープリテーションを用意しています。

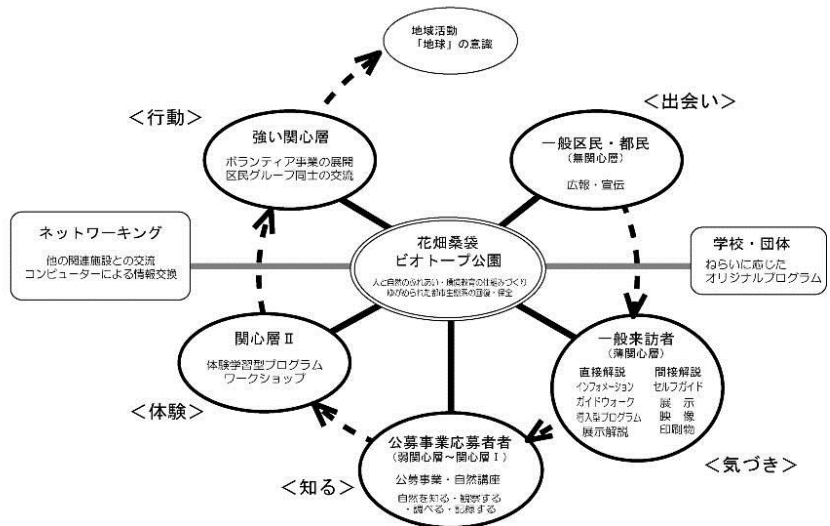


図-2 当公園における環境教育の展開

② 具体的なインタープリテーション活動

当公園のインタープリテーションには直接的解説と間接的解説があります。前者は解説員が直接対応することで効果的に公園の「おもい」を伝えることができます。後者は直接的解説とくらべると効果は低いものの、多くの人に対応できること、時間を限定せずに来館者が利用できるという利点があります。

直接的なインタープリテーション

- ・ インフォメーション
- ・ レンジャートーク
- ・ プログラム（導入型、発展型、その他のプログラムなど）
- ・ 団体利用
- ・ 区民協働型事業（ボランティア養成講座、ビオレンジャーなど）

間接的なインタープリテーション

- ・ 展示（館内、館外、特別企画展示）
- ・ 図書コーナー
- ・ 教材開発（ワークシート、スライドなど）
- ・ 広報活動（ニュースレター、ポスター、チラシ、HP、メディアへの情報発信）

③インフォメーション、レンジャートーク

「インフォメーション」 来館者のニーズに応じて、施設やイベントの案内を行う。単なる情報提供に終わらずに、自然の楽しみ方や自然への気づきにつながるように心がける

「レンジャートーク」 来館者の関心に応じて、展示や季節の自然などを通じて解説を行う。実際に野外でも体験したいという気持ちにつながるように心がける。

当公園での来館者へのインフォメーション、レンジャートークは、来館者のニーズを把握するとともに、インタープリテーション活動をより効果的に実践するために大切な業務です。実施状況を表-3及び表-4に示します。

インフォメーションは、年間で延べ 4,000 人以上に行いました。イベント情報の他、ボランティア活動、団体利用などを中心に案内をしました。また例年人気の高いザリガニ釣りも、年間を通して問い合わせがあり、受付方法や出現する時期などを案内する機会が多くありました。

レンジャートークは年間で延べ 1 万 1 千人以上に行うことができました。昨年度より、あやせ川清流館内で飼育する生物の種数を増やした結果、ビオレンジャーの活動から一般来館者まで、それらの生き物のエサ捕り体験の提供や、生態の解説活動を行う機会が多くありました。

上記の結果から、身近な生き物への関心は子どもから大人まで高いことが読み取れます。ビオトープや生物多様性などの言葉自体はまだまだなじみが薄く、難解なテーマと捉えられがちですが、言葉のみで解説するよりも、身近な親しみやすい生き物と触れ合う体験を通すことで、より理解が深まるものと考えられます。

今後も多くの方に興味・関心を持っていただくために様々な体験の提供が必要だと考えています。

表-3 インフォメーション、レンジャートークの実施状況

月	インフォメーション			レンジャートーク		
	大人	子ども	合計	大人	子ども	合計
4	187	279	466	460	850	1310
5	175	298	473	467	811	1278
6	160	299	459	483	700	1183
7	215	291	506	505	779	1284
8	207	362	569	368	968	1336
9	157	256	413	351	650	1001
10	146	204	350	428	577	1005
11	132	190	322	308	488	796
12	44	87	131	115	246	361
1	97	153	250	213	400	613
2	56	94	150	163	233	396
3	117	94	211	299	415	714
合計	1693	2607	4300	4160	7117	11277

表-4 平成 24 年度の主なレンジャートーク一覧

4月	5月	6月	7月	8月	9月
<ul style="list-style-type: none"> ため池でみられる野鳥について 抽水植物の特徴について 綾瀬川の水質について アオダイショウの生態について 	<ul style="list-style-type: none"> シジュウカラの飛来について 浄化施設について 食物連鎖について カキツバタの開花 	<ul style="list-style-type: none"> バンの営巣について オオガハスの開花 アメリカザリガニの生態 ガマの葉の利用について 	<ul style="list-style-type: none"> オオガハスの開花 バッタ類の食性について チョウトンボの飛来 ビオトープの管理について 	<ul style="list-style-type: none"> セミの羽化について 園芸品の外来植物 ナミアゲハの幼虫の食草 トノサマバッタの黒色型について 	<ul style="list-style-type: none"> ササゴイとゴイサギの見分け ハスの花托について 園内で見られるカマキリの種類 環境管理について
10月	11月	12月	1月	2月	3月
<ul style="list-style-type: none"> セスジズメについて オオガハスの遺伝子保護について ドングリの見分け方 アメリカザリガニの冬眠 	<ul style="list-style-type: none"> 冬鳥の飛来 ハイタカ、オオタカについて 分解者の役割について 足立の河川について 	<ul style="list-style-type: none"> 紅葉の仕組みについて マヒワの飛来 ドングリの発芽について 冬越しする生き物 	<ul style="list-style-type: none"> コガモのオスとメスの見分け ダンゴムシの生態について イソシギの飛来について モズのはやにえ 	<ul style="list-style-type: none"> アカメヤナギの冬芽 双眼鏡の使い方について シイタケの原木について オオミズアオの蛹について 	<ul style="list-style-type: none"> 綾瀬川の起点について 綾瀬川の歴史 ツクシの発生 春に見られる野草について

④導入型プログラム、発展型プログラム、その他のプログラム

導入型プログラム	自然の中で遊びたい、自然を体験したいという方に、気軽に参加できるプログラムを実施。(当日募集)
発展型プログラム	自然に関心があつて、もっと深く知りたい、じっくり観察したいという方に、より深い内容のプログラムを実施。(事前募集型)
その他のプログラム	上記以外にリピーターやイベントのない日の来園者の要望に応じて、不定期の個人対応プログラムを実施。(随時受け付け)

今年度は、導入型プログラムを26回、発展型プログラムを12回、その他のプログラムを1,164回実施しました(表-5)。

プログラム実施中や実施後に得た感想、アンケート結果(図-3~5、表-8~9)から、参加された方は十分な満足と自然やビオトープへの理解を深められた様子が伺えます。プログラムの参加状況の特徴を見ると、導入型の参加率が86%と昨年度(76%)よりも増加しました。発展型プログラムは、参加者数の合計が226人と昨年度(170人)より増加しました。参加率は79%で昨年度(67%)を上回り、応募率も106%で昨年度(76%)よりも増加しました。

昨年度は東日本大震災の影響もあり、全体的なプログラムの参加率が減少しましたが、今年度は導入型・発展型プログラム共に参加率が増加し、昨年度以前の値に戻りつつあるのが伺えます。また、実施プログラムのマンネリ化によるプログラム参加率減少が考えられたため、導入・発展型プログラム共に、昨年度実施したものから内容を一新したことも、参加率増加につながったと考えられます。

しかしプログラム内容の一新を図ったにも関わらず、マスコミへ取り上げられる機会が少なく、参加者数が伸び悩んだプログラムもあったため、次年度はよりマスコミへの効果的な情報発信を行い、取り上げられる機会を増やし、全体的な参加者の増加へつなげていきたいと考えています。

表-5 平成24年度のプログラムの実施回数と参加状況

	回数	参加者数			平均参加者数	定員	参加率
		大人	子ども	計			
導入型プログラム	26	136	320	456	17.5	各回20人	86.0%
発展型プログラム	12	110	116	226	18.8	各回20人~50人	79.0%
その他	1164	1489	6723	8212	7.1	なし	--
合計	1202	1735	7159	8894	7.4	--	--

・導入型プログラム

昨年度よりプログラムの実施回数が減ったため、全体の参加者数は昨年度と比較すると減少しましたが、参加率は増加しています。また、はじめて参加した人の割合が昨年（36%）に比べ 51%と増加しており、新規参加者を多く獲得していたことがうかがえます。

特に参加人数の多かったプログラムは、「ビオトープわくわくアドベンチャーゲーム」（28人）「テントウムシのブローチづくり」（31人）「ペットボトルでセルビンをつくろう」（27人）「ハスの葉であそぼう」（26人）「セミ★コレクション」（27人）「ハチのお宅訪問！～ドロバチハウスをのぞいてみよう～」（27人）「葉っぱのキーホルダーづくり」（29人）でした。

全体的な参加状況を見ると、他の施設でも実施しているような生き物観察や自然物のクラフト等のプログラムよりも、当公園以外では体験が難しい生き物の集まるしかけづくりや、ハスを利用したプログラムへの参加率が高いことが読み取れます。当公園は交通の便があまり良くないため、特に遠方からの利用者には「桑袋ビオトープ公園以外では体験が難しい」内容が、プログラム参加のきっかけにつながると考えています。今後も参加者のニーズをよく把握し、当公園ならではのプログラムを実施すると共に、子どもから大人まで楽しめるプログラムを実施していきたいと考えています。

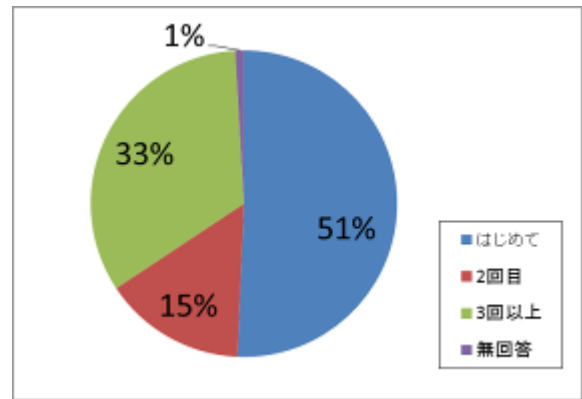


図-3 導入型プログラムのリピーター率

表-6 導入型プログラム参加状況（全て定員 20 名）

	実施日	プログラム名	参加者数			参加率(%)
			大人	子ども	計	
1	4月8日(日)	電子レンジで簡単！野草で押し花しおりづくり	7	11	18	90
2	4月29日(日)	ビオトープでわくわくアドベンチャーゲーム	4	24	28	140
3	5月3日(木祝)	原っぱの虫・春の大捜査！	0	4	4	20
4	5月6日(日祝)	テントウムシのブローチづくり	9	22	31	155
5	6月3日(日)	ペットボトルでセルビンをつくろう	6	21	27	135
6	6月17日(日)	クモの巣の標本づくり	3	13	16	80
7	7月8日(日)	ハスの葉であそぼう！	10	16	26	130
8	7月15日(日)	原っぱの虫・夏の大捜査！	11	14	25	80
9	8月5日(日)	手作りろ過器で水の浄化実験	6	14	20	100
10	8月19日(日)	ザリガニ研究室へようこそ	9	12	21	105
11	8月26日(日)	セミ★コレクション	12	15	27	135
12	9月2日(日)	ビオトープのトンボ大集合！	7	8	15	75
13	9月17日(月祝)	ハチのお宅訪問！～ドロバチハウスをのぞいてみよう！～	8	19	27	135
14	10月7日(日)	原っぱの虫・秋の大捜査！	3	4	7	35
15	10月14日(日)	野鳥の巣箱をかけてみよう	4	3	7	35
16	10月28日(日)	森の恵み！ドングリであそぼう	2	10	12	60
17	11月4日(日)	葉っぱのキーホルダーづくり	10	19	29	145
18	11月11日(日)	ハスの実でお守りづくり	4	16	20	100
19	12月16日(日)	植物のハンコで年賀状をつくろう	2	5	7	35
20	12月22日(土)	木の実の壁かけをつくってみよう	0	3	3	15
21	1月6日(日)	手づくりの羽根で羽根つきをしよう	4	13	17	85
22	1月13日(日)	つくって飛ばそう！綿毛の模型	4	13	17	85
23	2月10日(日)	野鳥のぬり絵で絵手紙づくり	3	14	17	85
24	2月24日(日)	生きものサバイバルゲーム	1	11	12	60
25	3月3日(日)	春はすぐそこ！自然のいろいろ色あそび	2	7	9	45
26	3月10日(日)	野草のステンシルで生きものハンカチづくり	5	9	14	70
合計			136	320	456	86
平成23年度合計			140	355	495	79

導入型プログラムの事例紹介（一部）

「テントウムシのブローチづくり」 5月6日実施

テントウムシの模様を観察し、ブローチを作成するイベントを行いました。はじめに、館内において公園で見られるテントウムシの仲間を紹介し、その後、園内に探しに出かけました。見つけた中から自分の好きなテントウムシの模様をブローチに色付けしました。

参加者は身の回りに色々な種類のテントウムシが生息していることや、生き物のもつ模様の不思議に気がついている様子が伺えました。

「クモの巣の標本づくり」 6月17日実施

身近にある、クモの巣に注目したイベントです。始め

に、スライドでクモの生態や巣の作り方を紹介した後、園内でクモの巣を探して標本を作りました。

標本はクモの巣に糊を噴きかけ、紙に張り付けて作ることができます。そのままでははっきり見えないので片栗粉を振りかけると、クモの巣がはっきりと浮かび上がります。出来上がった標本を見ると参加者からは驚きの声が聞かれました。

「ハスの葉であそぼう」 7月8日実施

公園内のハス田に生えるオオガハスの葉を使ってゲームやクラフトの体験を行いました。

葉の水をはじく性質を利用し、となりの人に順々に水を渡していく「水わたしリレー」や、茎の断面を利用してスタンプにし、ハガキ作りを楽しみました。

茎の中がレンコンと同じように穴があいていることに驚いている様子や、断面の模様をうまく組み合わせさせてスタンプし、生きものや花の様子を見ることができました。

「手作りろ過器で水の浄化実験」 8月5日実施

身近にある材料で水を浄化するろ過器を作るイベントです。始めに、砂利や赤玉土などさまざまな自然物からそれぞれの特徴を考えながらペットボトルに入れるものを決めてもらいました。子どもから大人まで真剣に材料を選ぶ姿が印象的でした。

また完成したろ過器に絵の具で色付けした水を通して、透明の水が出てきたときは、全員から「透明になったよ！」と驚く声が聞かれました。

「セミ★コレクション」 8月26日実施

夏の風物詩でもあるセミを主役にしたイベントを行いました。まず幼虫期の生活や、一生を通じて樹液しか食べない食性など、セミの生態についてスライドで解説しました。その後、園内にて虫捕り網を使って成虫の捕獲と、抜け殻の採集を行いました。

抜け殻からセミそれぞれの種を同定する作業は少し難しかったようですが、身近にいる生き物をじっくり観察するきっかけになったように思います。

「ハスの実でお守りづくり」 11月11日実施

ハスの実を使ってお守りを作るという、ピオトープ公園では初めてとなるイベントを実施しました。園内で見られるオオガハスについて紹介したあと、お守りづくりを行いました。ハンドドリルを使って自分でハスの実に穴を空けてもらったのですが、ハスの実の外側は硬く、中心部は柔らかいという感触の変化に驚いている様子が感じられました。

「つくって飛ばそう！綿毛の模型」 1月13日実施

風に運ばれ遠くへ移動する綿毛を持つ種の仕組みに注目したイベントです。まず園内の植物には、風力で運ばれてくるものがあることを説明し、その後園内で綿毛の植物の種を探しました。模型は実際の綿毛を参考にスズランテープを細くさいて作りました。

最後に外に出て、完成した模型を飛ばしてもらい、綿毛が風力で移動する様子を体験してもらいました。自分の模型が風にのると嬉しそうに追いかけたりするなど、楽しんでもらえた様子でした。

「生きものサバイバルゲーム」 2月24日実施

生き物の食べる、食べられる関係に焦点をあてたゲームを行うイベントです。餌となる生き物を捕まえる方法など、その生き物の特徴を踏まえ、参加者に生き物になったつもりで3種類のゲームを体験してもらいました。

参加者は生き物がエサを得る大変さを感じている様子も伺え、ゲームに参加することで、楽しみながら生き物同士の関係を学んでもらうことができました。

・発展型プログラム

今年度、発展型プログラムは応募率、参加率共に昨年度と比較し大きく増加しています（表－7）。要因として昨年度に東日本大震災の影響で中止となった「ため池のかい掘り体験」「どろんこハス掘り体験」などの需要が高いプログラム、また子ども向けのキャンプや夜間プログラムなどの夏休み期間で子どもの参加率の高いプログラムを実施することで、全体的な値の増加につながったと考えています。また応募率、参加率共に100%を超えたものは「ハスで染めよう～花托染めでエコバッグづくり～」「シイタケの原木づくりに挑戦！」の2つでした。「ため池のかい掘り体験」「どろんこハス掘り体験」は応募率が120%以上となり、プログラムとしての注目度の高さが伺えます。

参加者の満足度（とてもよかった）が80%と昨年度（88%）よりも若干減少しましたが依然として高い値です（図－4）。リピーター率は約60%と昨年度（50%）より増加しています（図－5）。プログラムの満足度が高く、リピーター率が上がっていることから、一度プログラムに参加していただいた方がリピーターになる傾向が高いことがわかります。今後はより一層、新規の参加者を増加させ、リピーターとなって頂き、応募者・参加者を増加させていきます。

また昨年度から、プログラムのマンネリ化によって応募率、参加率の減少が見られたため、プログラムの内容を一新しました。リピーターが多いことから、今後もプログラム内容は新しいものを考え実施していくことで、新規参加者とリピーター共に満足度を上げることが必要だと考えています。

表－7 発展型プログラム応募状況および参加状況

	実施日	プログラム名	応募者数			応募率(%)	参加者数			定員	参加率(%)
			大人	子ども	計		大人	子ども	計		
1	5月27日(日)	刈り草でつくろう！野草の紙すき体験	12	9	21	105	10	5	15	20	75
2	6月24日(日)	ガマの葉でコースターをつくろう	6	15	21	105	6	13	19	20	95
3	7月29日(日)	夜空の忍者★コウモリを観察しよう	15	15	30	150	12	7	19	20	95
4	8月8日(水)、9日(木)	里山ビオトープ探検ツアー	-	19	19	95	-	18	18	20	90
5	9月15日(土)	ため池のかい掘り体験～水辺の生きもの救出大作戦～	23	37	60	120	18	28	46	50	92
6	9月30日(日)	ハスで染めよう！～花托染めでエコバッグづくり～	17	8	25	125	14	7	21	20	105
7	10月20日(土)	ハス田で泥んこハス掘り体験	16	23	39	130	10	16	26	30	86
8	11月25日(日)	自然の素材でお花炭をつくろう	14	11	25	125	11	7	18	20	90
9	12月9日(日)	使用済みの油で簡単！キャンドルづくり	7	3	10	50	7	3	10	20	50
10	1月27日(日)	野鳥の足跡でペーパーウェイトづくり	7	4	11	55	6	3	9	20	45
11	2月17日(日)	シイタケの原木づくりに挑戦！	17	20	37	185	11	9	20	20	100
12	3月24日(日)	綾瀬川のんびり自然探訪～起点をめざして～	6	-	6	30	5	-	5	20	25
合計			140	164	304	106	110	116	226	280	79
平成23年度合計			110	95	205	74	97	83	180	270	66

発展型プログラムの事例紹介（一部）

「刈草でつくろう！野草の紙すき体験」 5月27日（日）実施

今年度初めて実施したプログラムです。園内の環境管理と生きものとの関わりに焦点を当て、一般来園者に草刈りの体験と、その刈草を利用して紙すきを体験してもらいました。

はじめに園内で草刈りを体験してもらいました。今回は景観を良くするための草刈り作業を行っていただきましたが、刈り取り後の仕上がりには参加者の方も満足そうな様子が伺えました。紙づくりの作業では、牛乳パックのフィルムをはがしてパルプ状にしたり、自分たちが刈り取った草をすりつぶして繊維状にしたりと様々な工程を体験してもらいました。紙すきを初めて体験する方が多かったようですが、コツがわかると、楽しみながら作品を作る様子が見受けられました。最後に刈草の別の使い道として、ビオトープ公園で実際に行っているエコスタックへの利用や堆肥づくりを紹介しました。

普段来園者に体験してもらうことの少ない、園内の環境管理を維持するための作業を体験できる、当公園ならではのプログラムであると感じました。

「夜空の忍者★コウモリを観察しよう」 7月29日（日）実施

身近な哺乳類の代表、コウモリの観察を行うプログラムです。都市部に生息しているにも関わらず、実際の生体の観察や生態を知る機会が少ないこともあり、定員を大きく超える応募がありました。

観察では、コウモリの出す超音波を感知するバットディテクターという機械を使い、コウモリが飛んでいる方向や超音波の出ている間隔などを体験したり、コウモリが周囲に飛んでいるものをエサと認識し飛び方を変える様子などを観察したりしました。最後にアブラコウモリのはく製と骨格標本を紹介すると、その姿の小ささに驚く参加者の様子が伺えました。

コウモリは蚊などをエサにするため人に有益な生き物であることや、都市化による生息地の減少について伝えると、子どもから大人まで真剣に解説を聞く様子が伺え、内容について深く理解を得られたように感じます。

「里山ビオトープ探検ツアー」 8月8日（水）～9日（木）実施

子どもを対象にしたキャンプは当公園の中でも人気の高いプログラムです。今回は公園内ではなく、埼玉県入間市の「さいたま緑の森博物館」との共催という形で実施し、探検フィールドだけでなく宿泊場所の提供、現地の専門解説員による解説など、様々な協力を得ることができました。

プログラム内では、足立区内ではなかなか見ることのできない雑木林の環境やそこに生息する生き物をたくさん観察することができました。夜は木々の樹液に集まるカブトムシやセミの羽化など、夜ならではの生き物の観察や暗闇の中で1人の時間を過ごす「ナイトソロ」というプログラムも行いました。

また全体を通して子ども達の発見をまとめるために「探検マップ」の作成を行い、探検中に発見した生き物や自然の様子を自由に書き込んだり、他の子どもが発見したものを全員で共有したりしました。

子ども達からの感想から、こちらの意図する里山の環境と自分達の住む足立区の自然環境との違いに気づくことももちろんですが、子ども達にとってかけがえのない貴重な体験となったことが伺えました。

「ため池のかい掘り体験～水辺の生きもの救出大作戦～」 9月15日（土）実施

ため池の底にたまるヘドロの掻き出し作業と、それに伴い少なくなる池の水から水中の生き物を救出する一般来園者参加型の環境管理プログラムです。当公園では毎年実施しているプログラムですが、昨年度は東日本大震災の影響もあり中止となったため、1年振りの実施となりました。

プログラム序盤は池の中の生き物を捕獲し、スジエビやウキゴリなどこれまで見られなかった生き物が捕獲されました。その後ヘドロの掻き出し作業を行いました。参加者全員で列を作りバケツリレーの要領で協力して運んでももらいました。年齢を問わず楽しんで作業する様子が印象的でした。また当プログラムは公園管理ボランティアの協力を得て実施しました。今回は元1期生から4期生までに協力をいただき、普段の講座や活動にはない一般来園者と触れ合う場面もあり、区民協働の面からも実施が重要と考えています。

「ハスで染めよう！～花托染めでエコバッグづくり～」 9月30日（日）実施

ハスの花托を利用した草木染めのイベントで、今年度初めての実施となります。イベント内容としては、ハスの花托の刈り取りからエコバッグの染色・媒染作業を行いました。始めにハスの花托を園内のハス田で採集しました。また同時に種の遺伝子保護のため、種子の回収も行いました。染色作業では、始めにエコバッグの模様付けを行った後、花托を煮出して作った染液につけ、最後に媒染を行いました。媒染は媒染液によって仕上がりの色が変わるため、媒染液につけた時の色の変化に参加者から驚きの声が聞かれました。

種の遺伝子保護や園内の自然環境の管理に関わるイベントは、こうしたクラフト作成の体験につなげることで、子どもから大人まで楽しみながら理解を深められる重要なプログラムだと考えています。

「綾瀬川のんびり自然探訪～起点をめざして～」 3月24日（日）実施

当公園では平成19年度に1度実施しており、5年振りの実施となりました。

まず西新井駅に集合し、電車で蓮田駅まで移動しました。歩行を開始し、綾瀬川沿いで今の時期に見られる野鳥や野草、水辺の生き物などの解説をしながら歩きました。カワセミやイタチなど、普段はあまり見られない生き物を見ることができ、参加者の皆さんはとても楽しんでいました。川沿いを歩行中に3回、参加者の方に手を広げて並んでもらい、川幅を測りました。実際に自分たちの体を使って測ることで、起点に近づくにつれて水量が減っていていることを意識しながら歩いている様子が伺えました。起点に到着した後、元荒川水循環センターで、下水処理の話を行いました。自分たちの家庭から出る生活排水が川を汚す一因となっていることなどを伺いました。

自分たちの生活を見直すことで川がきれいになり、見られる生き物も増えるということで、水を使う際に意識しますという声が聞かれました。

表-8 発展型プログラム実施後のアンケート結果

	5月27日(日)	6月24日(日)	7月29日(日)	8月8日(水) 9日(木)	9月15日(土)	9月30日(日)	10月20日(土)	11月25日(日)	12月9日(日)	1月27日(日)	2月17日(日)	3月24日(日)	合計
タイトル	刈り草でつくろ！野草の紙すき体験	ガマの葉でコースターをつくろ	夜空の忍者コウモリを観察しよう	里山ピオトープ探検ツアー	ため池のかい掘り	ハスで染めよう	どろんこハス掘り体験	自然の素材でお花炭づくり	使用済みの油で簡単キャンドルづくり	野鳥の足跡でペーパーウェイトづくり	シイタケの原木づくりに挑戦	綾瀬川のんびり自然探訪	
回答者人数	14	17	19	18	35	19	23	17	10	9	20	5	206
当公園のイベント参加回数													
はじめて	9	12	3	9	11	13	10	4	3	1	7	1	83
2回目	1	1	8	1	3	3	2	3	2	0	4	1	29
3回目以上	4	3	8	8	21	3	11	10	5	8	9	3	93
無回答	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
イベントを知った理由(複数回答可)													
あだち広報	1	1	9	2	9	6	7	4	0	0	6	1	46
ニュースレター、ポスター、ちらし	3	9	6	6	9	5	8	10	1	5	9	3	50
スタッフから	12	3	2	2	10	1	0	0	5	2	0	1	38
友達・家族に誘われて	1	9	1	4	6	4	5	2	1	3	3	1	40
公園ホームページ	0	0	2	2	9	3	2	1	4	1	2	0	26
その他	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	4
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
イベントの満足度													
とてもよかった	13	14	13	14	26	14	21	12	8	9	16	4	164
よかった	1	3	6	4	9	5	2	5	2	0	4	1	42
あまりよくなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
よくなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

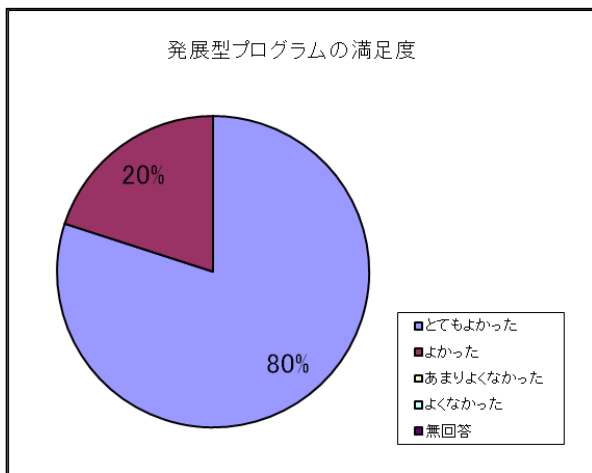


図-4 発展型プログラムの満足度

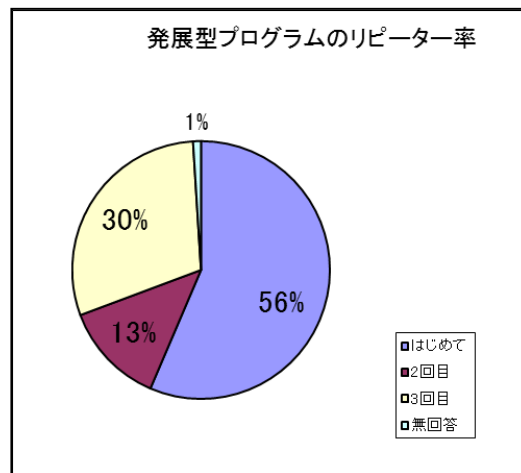


図-5 発展型プログラムのリピーター率

表-9 発展型プログラムのアンケート自由記述（一部）

「刈り草でつくろう！野草の紙すき体験」

- ・その他でつくった紙すきのコースター。
- ・身近な材料でこんなに簡単に出来る事を知り、自宅に帰りましたらぜひ作ってみたいと思いました。
- ・紙すきがとても楽しかった。
- ・いろんなニオイがしたこと。
- ・初めての紙すき体験でした。草によって色が違うので、他の植物でもためしてみたい。
- ・失敗しちゃった。家でもやってみたい。
- ・楽しかったのは、皿を作るときです。でもくずれてしまったのでくやしかったです。紙すきは初めてで、とても楽しかったです。
- ・紙づくりがとても楽しかった。
- ・作れてよかった。
- ・野草によって違うにおいがしたこと。
- ・草で紙やコースターやお皿を作って楽しかった。いつも作らないからよかった。
- ・紙をすくのが楽しかった。

「夜空の忍者★コウモリを観察しよう」

- ・コウモリが軍手をみたこと。
- ・軍手をなげたこと（2名）
- ・バットモスゲーム（2名）
- ・あだちのコウモリがこわかったです。
- ・カルガモがいた。今日楽しかった。（いっぱいコウモリがいたこと。）
- ・楽しかったことは、軍手を投げてコウモリの反射をみれたことです。投げて試すのも楽しかったです。
- ・コウモリの超音波が聞こえる機械があることを知りました。あとコウモリが近くまで来たのが嬉しかったです。
- ・コウモリの大きさとか、種類とか色々知れて、面白かった。バットディテクターを初めてみた。
- ・コウモリが蚊を食べること。
- ・バットモスのゲームで、耳だけでも機敏に動けること。軍手でコウモリがえさを間違えて飛んでくること。
- ・コウモリの大きさが思っていたより小さかった。身近にコウモリがいることを発見しました。
- ・コウモリは「力」を食べて、身近に街にすんでいるということ。
- ・コウモリが力を食べていることを知ったこと。コウモリのホネを見れたこと。
- ・コウモリは水辺を好むこと。
- ・コウモリが軍手を投げると急降下してくること。
- ・コウモリの習性がよくわかった。書き込めるレジュメみたいなものがあればよかった。夏休みの自由研究に活かせるので。

「里山ビオトープ探検ツアー」

- ・生き物をつかまえたり、トラップをしかけたりしたことが楽しかったです。特にセミが羽化していたことが一番印象に残りました。
- ・カブトムシがいっぱいた。（5名）
- ・クワガタムシが少なかったこと。チームで虫をつかまえたこと。
- ・トラップをしかけて虫をとるのが楽しかった。（2名）
- ・カエルが間近で見れてよかった。
- ・ニホンアカガエルを見れてよかった。
- ・落とし穴のトラップにカルピスを入れると、虫がいっぱいかかるといことがわかった。
- ・虫をつかまえたりすることが楽しかった。
- ・しかけにカブトムシがいたことがうれしかったです。
- ・カブトムシばかりでよく探してもクワガタはいませんでした。
- ・カエルがいっぱいた。
- ・池でヤゴをつかまえたこと。
- ・知らなかった花や生き物がたくさん知れたから楽しかった。
- ・ナイトソロでいろいろな音とか聞けて楽しかったです。ザトウムシ、ウグイス、オオカマキリ、カブトムシ（オス）（メス）、コクワガタ、ショウリョウバッタ、オンブバッタ、クワカミキリ
- ・野生のカブトムシを見つけたこと。

「ため池のかい掘り体験～水辺の生きもの救出大作戦～」

- ・大きなドジョウを子どもにさわらせてあげられたのが良かったです。
- ・大きいドジョウが見れてとてもよかったです。(2)
- ・ウシガエルのオタマジャクシがすごく大きいことを発見しました。(2)
- ・魚とか、捕まえて楽しかった。
- ・モツゴをつかまえて楽しかったです。
- ・ヘドロがすごいです。モツゴがたくさんいました。
- ・貝をつかまえた。魚やザリガニをみつけた。
- ・久しぶりにどろんこ遊びをしたこと。
- ・モツゴがいっぱいいた。(2)
- ・ザリガニ(2)
- ・ザリガニ、モツゴをとったこと。モツゴの魚の名前は初めて知りました。
- ・生き物好きにはたまらなく楽しかったです。このようにして、みなさんできれいな遊び場をつくっていることがわかりました。
- ・オタマジャクシをつかまえるのが楽しかった。ウシガエルのオタマジャクシが大きかったこと。
- ・きもちわるかった。
- ・子どもが楽しそうに遊んでいた。大切な体験になりました。(2)
- ・ウシガエルのオタマジャクシがプニプニしていた。
- ・ザリガニをいっぱい見つけた。
- ・ため池にザリガニやモツゴ以外にもたくさんの生き物がいるのを知った。
- ・ザリガニが石と石のすきまにたくさんいた。魚は水がたくさんあるところにいた。
- ・色々な生き物がいた。
- ・エビがいてつかまえたこと。
- ・楽しかった。
- ・いろいろな生き物があったので、楽しかったです。
- ・ヘドロをとって池をきれいにしないと生き物によくないのだということがわかりました。生き物を助けて、池をきれいにできてよかったです。
- ・池の中に初めて入りました。魚をとるのが楽しかった。
- ・都会でこういったイベントは、子どもにとっても非常に貴重な体験でした。
- ・ザリガニやおたまじゃくしをとるのが楽しかった。

「ハスで染めよう！～花托染めでエコバッグづくり～」

- ・ハスのことを色々知ったこと。
- ・染めるときには力があることがわかった。
- ・ハス池に入れたこと。
- ・色の濃い、うすいがわかった(2人)
- ・草木染めは初めてしたので、たのしかったです。家でもやってみたいです。
- ・ハスの茎を直接触れたこと。
- ・みんな同じ物を使っていたのに、いろいろなものができたこと。
- ・身近な物で染め物が出る事が分かり良かったです。
- ・モノを作るのは楽しい。
- ・ハスを切るのがたのしかったです。
- ・ハスの実を手にしたのが初めてなので良かった。
- ・ハスが食べられることを知りました。
- ・すごく楽しかったです。ハスの花托での染め、いい色になりました。
- ・石灰での媒染ははじめてなので良かったです。参考になることがたくさんありました。
- ・色の違いが楽しめました。
- ・子供と一緒に参加できて楽しかったです。
- ・「花托」という言葉をそもそもはじめて知った。染めの工程がよくわかった。説明を丁寧にいただいたので。
- ・ハスの花托が、ばふばふしているのをはじめて知りました。

「綾瀬川のんびり自然探訪～起点をめざして～」

- ・カワセミ、イタチ等、思いがけない動物が見られたこと。カラシ菜いっぱい摘みました。楽しかったです。
- ・自然の生き物や雑草等、これからは意識しながら散歩を楽しみたいと思います。
- ・川沿いを歩いて楽しかったです。川辺が近いのは、良いですね。カワセミが5羽も見れた事をみんなに話したいと思います。
- ・自然探訪、自然の大切さ、川の水の大切さ、下水処理の大変さ

・その他のプログラム

その他のプログラムは、導入・発展型プログラムと違い、当日に来園者の興味や関心から発展して実施するプログラムです。来園者の年齢や関心に合わせて適切なプログラムを実施でき、少人数で実施するため環境教育的効果が高いと思われます。また、普段は見られないその時その場でしか起こりえない自然現象を逃さずに捉えられることがフィールドをもつ当公園の魅力であり、リピーターの増加につながると考えています。

その他のプログラムには今年度から開始した「ビオレンジャー定例活動」が含まれ、4月～11月の月1回、年間8回実施しました。ビオレンジャーは発足から4年を迎え、継続して活動する子どもと、新規に登録して活動し始める子どもが依然として多く、年間を通して多くのビオレンジャーに対しプログラムを実施することができました。

また昨年度から館内の生体展示を充実させたことで、飼育生物のエサ捕りや給餌体験プログラムを行う機会が多くありました。カマキリやカエルなど身近に生息する生き物でも、餌を食べる瞬間を見る機会はあまりないため、子どもから大人まで夢中になって観察する様子が伺えました。

全体の実施回数は1,000回以上となり、昨年度を大きく上回りました。今後は、より幅広い年齢層に対しニーズに合わせたプログラムを実施すると共に、当公園ならではの体験を提供したいと考えています。

表ー10 その他のプログラム実施回数および参加状況

月	回数	参加者数			平均参加者数
		大人	子ども	計	
4月	104	77	511	588	5.7
5月	83	191	693	884	10.7
6月	82	207	793	1000	12.2
7月	113	302	1068	1370	12.1
8月	153	304	1116	1420	9.3
9月	103	158	689	847	8.2
10月	90	101	436	537	6
11月	82	45	399	444	5.4
12月	75	24	200	224	3
1月	82	17	223	240	2.9
2月	93	27	243	270	2.9
3月	104	36	352	388	3.7
合計	1164	1489	6723	8212	7.1
23年度合計	783	1254	4914	6168	7.8
22年度合計	592	1857	4716	6573	11.1

⑤特別企画展「はじめよう！手のひらのビオトープ」開催（7/21～9/2）

今年度の特別企画展示は、「ビオトープネットワーク」の広がりを中心に焦点をあて、家の庭やベランダなど小さな空間でできる生き物のすみかづくり＝「手のひらのビオトープ」をテーマに行いました。

主に野外展示がメインとなり、あやせ川清流館周辺に一般的なベランダとほぼ同じスペースのデッキを組み、実際に陸地と水辺のビオトープ作成の見本となる植物の展示を行いました（写真 - ②）。また「手のひらのビオトープの○と×」という展示では、ビオトープを作る際に野外へ植物が移出しないような工夫や、園芸種から要注意外来種や特定外来種として指定されている植物などを紹介しました。

館内にはビオトープネットワークの広がりが目で見えてわかるマップ（写真 - ④）や、桑袋ビオトープ公園に新しく生きものが入ってくるためには、どんなネットワークが必要かをテーマにした、ジャンボすごろく「カエルたちのぼうけん」を展示しました（写真 - ⑤）。

生き物の生息環境の保護やビオトープネットワークという主題は一般的にもなじみが薄く、難しいと捉えられ、日々の解説でもなかなか扱いにくいテーマですが、ガーデニング等の要素を入れ「家庭でもできそう」「オシャレでやってみたい」という別の視点から展示を展開していくことで、自然について興味のない方にも、考えるきっかけになる新しいタイプの展示になりました。

また展示内容の中心は大人が対象でしたが、ビオトープネットワークの広がりやつながりをすごろくやマップに落とし込む展示も一部合わせて行うことで、小学生など小さな子どもも理解し楽しめる内容になりました。展示期間終了後は野外、館内共に常設展示に移行しました。

⑥団体対応

当公園では、校外学習をはじめとする学校等の団体の積極的な受け入れを行っています。

今年度の団体対応数は129団体6,392人で、平成23年度に比べると52団体2,391人の大幅な増加となりました。要因としてあげられるのが3つの保育園による通年利用で、幼稚園と合わせると延べ69団体と、団体対応の約半数を占める結果となりました。その他、小学校が10団体、養護学校が13団体、区内外の自治体の利用など、昨年度に引き続き保育園から老人介護施設まで幅広い利用がありました。また例年通り、出張展示によるPR活動、解説活動を行う機会がありました。

来年度も積極的に団体対応の受け入れを行っていくために、引き続きホームページにおけるPRの強化などを行っていく方針です。また出張授業プログラム集を充実させるなど、出張授業に関しても重点を置いていく方針です。

出張展示の詳細については「**6) 広報活動**」に記載します。

表-12 団体対応の実施状況

月	回数	大人	子ども	計
4月	8	50	43	93
5月	13	92	237	329
6月	19	718	931	1649
7月	13	120	195	315
8月	5	56	84	140
9月	10	138	226	364
10月	15	455	867	1322
11月	13	263	742	1005
12月	6	21	147	168
1月	7	28	113	141
2月	10	44	243	287
3月	10	271	308	579
計	129	2256	4136	6392

	団体数	大人	子供	計
養護学校	13	133	0	133
保育園・幼稚園	69	225	1664	1889
活動団体	7	74	44	118
自治体	10	105	8	113
介護施設	6	73	0	73
出張展示	9	1557	1666	3223
小学校(園内対応)	9	46	636	682
小学校(出張授業)	1	3	88	91
中学校	1	8	30	38
高校	0	0	0	0
大学	4	32	0	32
外国	0	0	0	0
計	129	2256	4136	6392

・小学生未満の対応（幼稚園・保育園）

今年度は近隣保育園3園により通年利用がありました。これまでの保育園対応の様子が広がり、徒歩圏内に位置する各園より団体利用の申し出を受けた形となります。対応の内容としては、昨年度の対応内容を基準に、各園の状況に合わせて実施しました。具体的には、4~9月頃に子どもが関心を持ちやすい昆虫探しを中心に行い、子どもが成長するにつれ徐々に植物や自然環境を題材にしたプログラムを実施するようにしました。また、以前から対応している保育園に関しては4歳児クラスも参加したプログラムを実施し、次年度からの対応を滑らかにできるよう保育園と連携して取り組みました。今後もさらに充実したプログラムを提供していく方針です。

幼稚園の対応は5団体ありました。当公園では毎年リピートして利用していただいている団体が多く、利用者に満足いただけているものと思われます。今後も利用団体に合わせたプログラムを提供し、満足度の高い対応を行っていきたいと考えています。

保育園、幼稚園向けプログラムの事例紹介（一部）

春の虫さがし」

実施日：5月23日（水）

捕獲の際は網を使用しないこと、観察後捕まえた虫は逃がすことなど、ビオトープ公園での虫探しのルールを伝え、草地で虫捕りを行いました。最初は虫が怖くて触れなかった子も、虫捕りが終わる頃には自分で虫を探すようになり、自然との距離が縮まっていく様子が印象的でした。虫捕り後のスケッチもよく観察し描いていました。

「ショウリョウバッタしらべ」

実施日：7月4日（水）

夏の原っぱで虫捕りを行いました。春に虫捕りをしたときと比べてどんな違いがあるのか、子どもたちも先生方も興味津々の様子でした。館内では、この日にもっとも多く捕獲できたショウリョウバッタに関するクイズを行い、耳の位置や4種類の体色など、あまり知られていない生態の特徴を盛り込みました。生きもののスケッチも熱心に行う様子が伺えました。

「ドングリであそぼう」

実施日：10月31日（水）

ドングリを食べる生き物や、その成長をクイズ形式で解説しました。実は人もドングリを食べる、という話をすると、実際に食べたことのある園児が手を挙げてくれました。

その後園内でドングリを拾い、道具を仲良く使用しながらコマを作成しました。ドングリを通して季節ならではの遊びを思い切り楽しんでもらえた様子でした。

秋の自然さがし」

実施日：11月9日（金）

6月に続き2回目の来園となる今回の対応では、前回と同じ形式のワークシートを用いつつ、季節の特性を感じられる内容にしました。子どもたちはどんぐりや落ち葉など、この時期ならではの「秋の自然」をみつけては、嬉しそうに教えてくれました。夏の時期と比較できたことで、園内の自然の様子がより強く印象に残ったようです。

・小学校・中学校の利用

今年度の小学校の利用は延べ 10 回でした。昨年度に引き続き、公園近隣小学校では、1 年生による年間 4 回の利用があり、1 年を通して自然の様子の違いを理解するプログラムを行いました。またその他の小学校へは、綾瀬川の水調べや季節の自然を感じるための自然発見ビンゴなどのプログラムを実施しました。その他、毎年実施している小学校への出張授業も行いました。

中学校は、特別支援学級の利用が 1 回ありました。

小中学校向けプログラムの事例紹介（一部）

「綾瀬川を知ろう」

実施日：1月24日（木）

社会科見学の一環として「浄化施設と綾瀬川について学びたい」との要望を受け、対応しました。まず、公園のすぐそばを流れる綾瀬川と、園内の浄化施設を見学し、その後簡易の水質調査キットを用いた水質調査を体験してもらいました。河川の水質や汚染問題は子ども達の興味をひくのが難しいテーマですが、水道水や飲料水などの身近な水との比較や、普段は使う機会のない調査キットを使用することで、楽しく学ぶことができたようです。

「冬の生きものさがし」

実施日：2月19日（火）

年間対応の最終回となる今回は、定例のワークシートと冬に見られる生き物ビンゴを実施し、最後に1年間のまとめを行いました。モズのはやにえなど、今の時期ならではの自然の状態を観察することができ、楽しんでいる様子でした。季節によって見られる生き物が違う事や、自然の様子が変わることなどを体験を通して理解したようで、また来たいという声がかれました。

「生きものさがし」

実施日：9月25日（火）

セルビンによるため池の生き物捕りと、草地での生き物探しを行いました。セルビンを初めて見る子が多く、仕掛ける作業に戸惑っていましたが、自分たちの仕掛けにモツゴなどの生き物が入っていると、とても喜んでいました。また草地ではチョウやトンボなど、素手で捕まえにくい生き物を捕まえている子もいました。普段はあまり生き物と触れ合う機会がないようですが、みなさん楽しそうにしていたのが印象的でした。

・大学の利用

今年度は3団体への対応を行いました。昨年度に続き、大学の環境サークルの利用があり、公園の概要やビオトープ管理についての紹介を行いました。また他2大学の学生の利用もありました。今後も積極的に区内の大学などへの教育支援を行っていきたいと考えています。

・特別支援学校、高齢者福祉施設の利用

今年度も近隣の足立特別支援学校や区内の高齢者福祉施設の利用があり、園内やあやせ川清流館の見学をされていました。1回の利用は30分程度が多く、館内で生体展示の解説を行うことが多くなっています。今後はミニプログラムを充実させるなど、短時間の利用でもより楽しんでいただけるようにしていきたいと考えています。

・自治体、活動団体の利用

今年度は16団体への対応を行いました。昨年度に比べると7団体の利用増加となりました。足立区内に留まらず、区外からの利用が目立ちました。全国的に注目を集め始めていることがわかります。

「ビオトープ公園概要紹介」

実施日：12月5日（水）

区外ビオトープ職員の視察の対応を行いました。まず、スライドを使用してビオトープ公園の概要説明と、解説業務やボランティアコーディネートについての紹介をしました。その後、園内を案内しながらエコスタックの紹介や、環境管理についての紹介を行いました。特にボランティアコーディネートについて活かすことができそうです、という声をいただきました。

⑦展示（館内・館外）

・館内展示

展示はインタープリテーションとして以下の目標をもとに作成しました。

①情報の発信と受信の機能を持つ展示

野外に出る前の必要な情報、自然と親しむための工夫を提供するとともに、利用者からの情報も展示に活用します。

②きっかけを与える展示

知識のみを伝えるだけではなく、自然の見方やとらえ方、自然との接し方など、気づき、きっかけを提供することを目指します。

③野外へと誘導する展示

野外での自然体験に誘導するための導入、あるいはまとめとして位置づけます。つまり、インタープリターによるガイドウォーク、野外展示や野外解説板と連携しやすい展示とします。

④清流館内へと誘導する展示

来園者に、当公園がどういった公園なのか、どのような活動ができるのか、利用方法を知っていただくために館内に足を運んでもらうことを目的とします。

来館者の多くはザリガニ釣りを目的に訪れますが、ザリガニだけでなく、他にも公園内の生き物や自然の魅力を伝えられるように、新規展示の作成を行いました。

昨年度から引き続き館内の生体展示を充実させることにより、来館者へ生体の解説や園内の環境との関わりを解説する機会が多くありました。

当公園の来館者の特徴としてリピーターが多いこともあり、今後も新規展示を作成し、年間を通して頻繁に展示の入れ替えをすることで展示物のマンネリ化を防ぐとともに、全体として統一感のある展示空間を構成していくことが必要だと考えています。

新規展示

○常設「あやせ川清流館 入口自動ドア」

清流館入口の自動ドアのガラス面は、これまで公園の開園時間や休園日などの案内、区内で行われる催しもののポスターなど紙媒体の掲示のみの殺風景な雰囲気でした。

そこで特別企画展示の開催に合わせ、ガラス面全体を使用して、生き物等に切り抜きしたカットティングシートの貼り付けを行いました。シートは半透明のため来館者からも「いつ貼ったんですか？」と聞かれるほど自然な印象で、館内に入りやすくにぎやかな雰囲気になりました。

また閉館時間に関する問い合わせも多かったため、同じように表示を貼り付けています。

○常設「公園の自然紹介コーナー」

公園内で見られる旬な自然情報を提供しています。来園者が野外への散策のきっかけになるよう、園内で見られる自然物などを紹介するコーナーです。

これまで自然紹介コーナーはあやせ川清流館の入口横に配置されていましたが、館内の解説員カウンターから遠いこともあり、直接来園者に公園の見どころを解説する機会がありませんでした。館内の中央に配置することで直接解説する機会を増やし、公園の魅力を伝え、野外への散策へとつなげていきます。

○常設「水の汚れを考えるコーナー」

館内にある水場正面の壁面に「水の汚れを考えるコーナー」として、綾瀬川の汚れの原因や、川を汚さないためにできることなどを紹介する展示を作成しました。また一級河川の水質調査で綾瀬川がワースト何位に入っているかなどの情報も掲載し、毎年情報を更新していく予定です。大人の来園者の中には綾瀬川の水質や生き物の生息状況などの情報を求めてくる方も多く、綾瀬川の現状や汚染の原因について解説する機会がありました。

○常設「湿性遷移について」

園内で見られる水辺の生きものを展示している場所に、湿性遷移についての説明展示を作成しました。池の底にヘドロがたまっただけだと、池がどうなってしまうのかについて説明しています。できるだけ文章を減らし、イラストを加えているので、小さな子どもでも絵本のような感覚で見ている姿が見受けられました。また、ため池のかい掘りイベントについて解説する機会も多く、イベントの告知と合わせて利用することができました。

○季節展示「ナミテントウ」

テントウムシの中でもナミテントウという種の、模様の多様性に注目した展示を作成しました。子どもは自分もこんなテントウムシを見つけたいと外へ出かけることが多く、一方大人はこんなにいろいろな模様があるのかと驚く方が多く見られました。テントウムシ探しはビオレンジャー活動としても行い、野外へと誘導するよいきっかけの展示となりました。

○季節展示「冬鳥」

越冬のために日本にやってくる冬鳥の中で、おもにため池で見られる種類を紹介し、その日見られた冬鳥を調べた結果を反映できる展示を作成しました。冬場は昆虫などの生きものを見る機会が減りますが、ため池で見られる野鳥が多くなります。大人から子どもまで双眼鏡を持って観察に行かれる方が多く、戻ってくると調査結果を嬉しそうに話してくれました。その調査結果をもとに解説素材としても利用する機会も多くありました。

○ハンズオン「自然の素材で音合わせ」

中身の見えない容器にドングリなどの身近な自然物を入れて、それを振ったり動かしったりすることで鳴る音で中身の自然物を当てる、音合わせゲームを作成しました。

目を使わず音だけで聞き分けるのは難しく、答えを見て納得する方や、首をかしげる方など、子どもから大人まで楽しむ様子が伺えました。また園内で見られる自然物を利用しているため、それぞれの自然物が見られる季節に野外の散策へと促し、解説に利用しています。

○ハンズオン「バラ科の仲間パズル」

園内で見られるバラ科の植物で、シモツケ、ソメイヨシノ、ヘビイチゴの3種類のパズルを作成しました。それぞれ図柄を完成させてもらい、その植物がなんなのかを当ててもらおうという仕掛けとしました。植物の絵柄を揃えるのにみなさん苦労されているようでしたが、できあがると嬉しそうに、また次のパズルに挑戦する様子が伺えました。今後も季節ごとに楽しんでもらえるよう、種類を増やしていきたいと考えています。

○ハンズオン「ビオトープカルタ」

園内で見られる生き物や、ビオトープをテーマとした句を来園者の方に作成してもらい、カルタを作成しました。遊びながら園内の自然の様子や、その生き物の特徴に触れることができるような句となっているため、カルタに出てきた生き物を見に実際に園内へ出かけて行ったりと、野外へ出かけるよいきっかけとなっています。

○生体展示

昨年度に大幅に充実させた生体展示を維持しながら、展示としての品質向上、飼育としての環境改善を目的とした微調整を行いました。昨年度はカナヘビとヤモリを同一ケージで飼育していましたが、ヤモリは夜行性で隠蔽性の強い種であり、昼行性で活発なカナヘビと同居飼育すると隠れっぱなしになってしまう欠点がありました。そこでヤモリの飼育ケージを新しく製作しました。このケージには板を貼り合わせた隠れ家を設置し、ヤモリにストレスのかからない飼育環境を用意しつつ、ヤモリの生態が観察しやすいよう配慮しました。また、ヒキガエル、アマガエル、アオダイショウのケージに遠赤外線ヒーターを設置し、冬季に加温できるようにしました。これにより、冬季においても活動している生体を展示することができました。

表-13 今年度展示した生体一覧

昆虫	オオカマキリ	両生類	ウシガエル
	ハラビロカマキリ		ニホンアマガエル
	コカマキリ		アズマヒキガエル
	ショウリョウバッタ	魚類	モツゴ
	オンブバッタ		ギンブナ
	トノサマバッタ		ドジョウ
	ツチイナゴ		ウキゴリ
	コバネイナゴ		ヌマチチブ
	クルマバッタモドキ		ニホンメダカ
	ウスイロササキリ	その他	ダンゴムシ
	ツユムシ		ワラジムシ
	エンマコオロギ		ミミズ
	ハラオカメコオロギ		クロベンケイガニ
	ツツレサセコオロギ		スジエビ
	ナナホシテントウ		テナガエビ
	ナミテントウ		アメリカザリガニ
シロテンハナムグリ			
爬虫類	ニホンカナヘビ		
	ニホンヤモリ		
	クサガメ		
	アオダイショウ		

・野外展示

野外展示については、以下のような機能を考え、設置しました。

①自然解説に関する展示

- ・自然の見方、楽しみ方の紹介
- ・身近な自然の利用方法や保全方法の提案

②施設の利用に関する展示

- ・あやせ川清流館や浄化施設、トイレなど各施設の周知と誘導
- ・利用方法の周知（禁止事項やルールなど）

昨年度に引き続き、来館者に野外での自然観察を楽しんでもらうためのツールとして設置している野外解説板を充実させるために、新たに2テーマ作成しました。今後園内に随時設置していく予定です。またこれまで設置していた解説板も、劣化の激しいものは設置のし直しを行いました。

野外に来園者参加型の展示物を設置することにより、区民と共に育てていく公園であること、ボランティア活動だけでなくイベントなど様々な形で公園の自然管理に関われることを来園者に伝えられる効果も見込めます。

野外展示は公園を楽しんでもらうためのきっかけや、あやせ川清流館までの誘導として有効に活用できるものですが、展示物ばかりになると景観が損なわれるため、設置する際は展示物全体の統一感を出すことが必要になります。

○野外解説板の設置

昨年度から引き続き、風雨にも強いアルミ板を用いた解説板を外部への発注により、掲示しなおしました。また昨年度設置した解説板の結束部分が劣化したため、新たに設置のし直しを行いました。

今年度新たに設置したテーマ（園内各所・全4カ所に設置）

<ドロバチハウス×2／注意（トゲ・毒など）×2>

○野外掲示板の充実

園内に設置されている「ふれあい掲示板」への情報掲載を充実させました。主な掲示内容は毎月のイベント情報や発展型イベントのポスターなどです。ザリガニ釣りへの参加のインフォメーションも掲示しているため、案内を見て館内へ足を運ぶ方も多く見られました。

近隣住民の中には公園を毎日の散歩コースにされている方も多くいるので、そうした方々に向けて情報の更新は随時行っていきたくと考えています。

○エコスタック「草積みのエコスタック」

上級ビオレンジャーの定例活動で、すでにある草積みのエコスタックのメンテナンスを行いました。園内に生えているセイタカアワダチソウを抜き、エコスタックに積んでいきました。自分たちの手で作ることによって、その後も様子を見に来園することが期待できます。

○野鳥の巣箱

園内に4か所設置しているシジュウカラの巣箱ですが、1年が経過し巣箱の利用状況を確認するとともに、巣箱内の掃除を行い、壊れているものは修理しました。

今年度、設置した4か所は全てシジュウカラが利用した様子は見られませんでした。今後も引き続き設置し、使用状況などを確認していきます。

○ビオレンジャー クイズボックス

昨年度に引き続き実施した上級ビオレンジャー定例活動内でクイズを作成し、野外に設置しました。その季節に合わせた問題を考え、随時更新しました。

来園者の中でも子どもの利用が多くみられ、子ども達自身の活動意欲向上にもなり、またビオレンジャー自体のPR効果も期待できます。

⑧図書コーナー

当公園の図書コーナーでは以下のテーマを中心として図書を収蔵しています。

- ・足立区内の河川（特に、綾瀬川、伝右川、毛長川）、河川の浄化
- ・ビオトープ、自然環境復元
- ・外来種（帰化種を含める）

今年度は主に植物図鑑の充実を図りました。また小学生が手に取りやすいような、漫画で生き物や自然環境について学べる図書も収蔵しました。楽しみながら読んでいる様子が見られます。大人や乳幼児を連れた保護者、小学生など幅広い年齢層の来館者が利用しています。

それゆえに、人気のある本は、表紙やページが破れたりしており、補修をする必要がある本もいくつかでてきました。次年度は、補修も積極的に行うなど、良い状態で来館者に手に取ってもらえる状況を整えることを検討しています。

⑨教材開発（ワークシート、スライドなど）

当公園で展開するプログラムにおいて、環境教育の効果を引き出すためには、地域固有のメッセージをもった教材やテキストの開発も必要となります。また、身近な自然や生き物を考えるための標本や模型、映像ソフト等は来園者へのインパクトも大きく、解説効果を高められると考えています。

・ワークシート

ワークシートはプログラムや窓口対応の中で随時作成し利用してきました。来園者のニーズや対象に応じて解説員が適切なワークシートを判断し提供しています。

セルフガイドは季節に応じたものを、常時パンフレットラックに並べていますが、持ち帰る来館者の姿も多く見られます。

・スライド

スライドは主に団体対応や通常のプログラムを行うなかで随時作成し、利用してきました。団体対応等では、初めて公園に来園する方も多いため、主に公園の概要や浄化施設の説明や生き物等の紹介を扱うことが多くなります。

開園から8年を迎え、開園当初からの自然の様子もだいぶ変化してきました。そうした環境の経年変化は団体利用で来た小学生等に見てもらおうと「こんなに変わったんだね!」と驚きの声も聞かれます。

[今年度作成した主なスライド] 生物多様性・ビオトープをテーマにしたスライド

- ・プログラム：野草の紙すき体験・ガマの葉でコースターをつくろう・夜空の忍者★コウモリを観察しよう・ハスで染めよう・野鳥の足跡でペーパーウェイトづくり・シイタケの原木づくりに挑戦!・クモの巣の標本づくりに挑戦・ビオトープのトンボ大集合・ハスの実でお守りづくり・つくって飛ばそう!綿毛の模型など
- ・団体対応：区内小学校・中学校・区内保育園など
- ・未就学児を対象：「ショウリョウバッタクイズ」「コオロギクイズ」「むしさがしのれんしゅう」など

・レンタルグッズ

来園者が各々でも自然体験を楽しめるように、以下の物品の貸し出しを行いました。

ショウリョウバッタ調査（虫かご・ストップウォッチ・帽子）、ザリガニしらべ（釣り竿・バケツ・帽子）、ため池の野鳥調査（双眼鏡・冊子）、アズマヒキガエルのえささがし（虫かご・帽子）

4) 区民協働型運営の展開

① 区民協働型運営の概要

近年、自然環境に対する区民の意識は高まり、地域の自然を大切にしたい、失われた自然を取り戻したいというニーズが増えています。こうした社会的ニーズに応えるためには、公園の自然環境の整備と同時に、地域住民に当公園への愛着を感じていただき、その存在意義と適切な環境管理の必要性を理解していただくことが不可欠です。そのためにも区と区民が連携しながら公園の管理運営を行うことが求められます。

これまで桑袋ビオトープ公園では、区民協働型運営の一つとして、区民に園内のビオトープ的管理を行ってもらう公園管理ボランティアを実施してきました。現在では公園管理ボランティア活動は、公園管理を中心にイベントの補助など、大きな役割を担って成果をあげています。

公園管理ボランティアが定着した今、次の段階として更に多くの区民が公園の運営に関わるために、多様な区民協働形態が必要となります。子どもから高齢者まで、様々な年代、生活スタイルをもつ公園利用者の区民協働を実現するため、区民協働のあり方もそれぞれの生活スタイルに合った多様な取り組みが求められます。(図-6)

これらを受け今年度は、「公園管理ボランティア」活動を軸に、修了後の活動となる「ビオトープ公園サポーター制度」を展開しました。また、子ども向けの「ビオトープ公園ジュニアレンジャー活動」、ザリガニ釣りなどの「飛び込み型環境管理ボランティア」を実施しました。

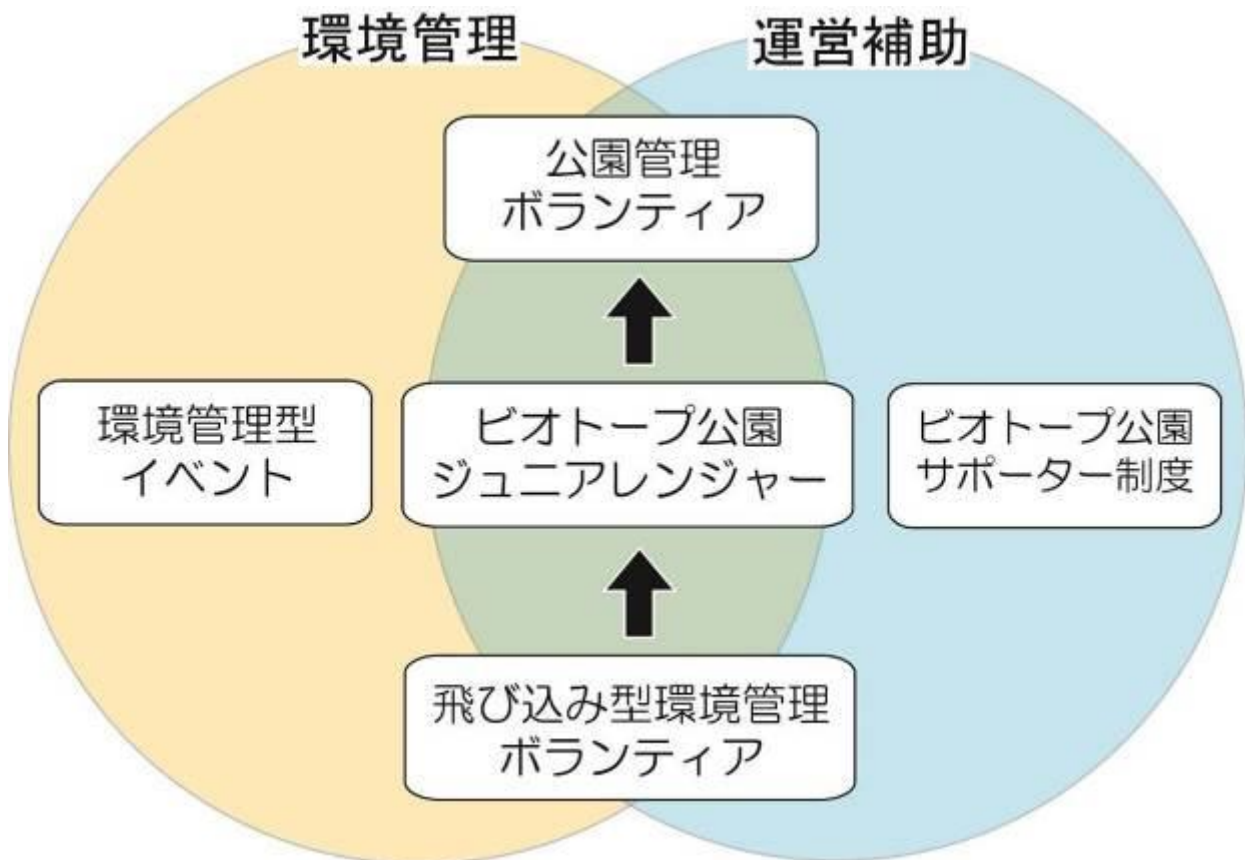
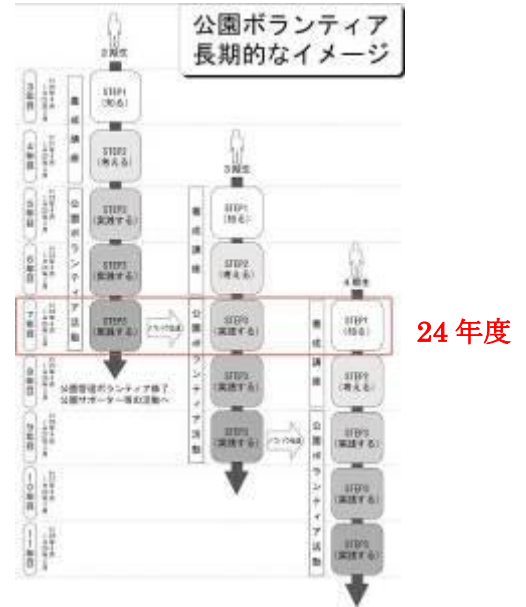


図-6 24年度の区民協働型事業イメージ

②公園管理ボランティアの活動とその成果

平成 17 年度 12 月より開始した区民協働型運営の中心となる活動です。公園管理ボランティアは、多様な生物の生息空間を創出するため、特に水辺の環境整備を中心に活動しています。年間の活動計画は、ボランティア自身で立てた上で足立区と調整し、決定しています。公園管理ボランティアの参加には条件があり、公園管理ボランティアの趣旨を十分に理解した上で同意書を取り交わし、2 年間の養成講座（STEP1、STEP2）を受講した後に、3 年間の公園管理の実践期間（STEP3）に移行します。今年度は 2 期生が 5 年目の活動、3 期生が管理活動の実践 1 年目、4 期生が新たに加わり、計 22 名の方が活動を行いました。

公園管理ボランティア事業のプログラム	
STEP 1（1 年目）	24 年度の 4 期生のステップ
〈知る〉 生き物に触れ、親しむ→環境を知る 公園管理に必要な基礎データの収集方法（モニタリング調査）について学ぶ。	
STEP 2（2 年目）	
〈考える〉 生き物と人と環境について考える・把握する 調査結果を基に、公園管理の考え方、管理計画について学ぶ。	
STEP 3（3 年目から 5 年目まで）	24 年度の 2,3 期生のステップ
〈実行する〉 生き物との共生を実践する 実際に公園管理をする。	



図ー7 イメージ図

表ー1 4 公園管理ボランティア登録者内訳

期生	男	女	計	備考
2期	6	1	7	うち区内在住者 7名
3期	7	0	7	うち区内在住者 5名
4期	7	2	9	うち区内在住者 8名
計	20	3	23	

(1) 2 期生の活動とその成果（活動 5 年目）

2 期生は今年度で活動開始から 5 年目、実践期間 3 年目となり、最後の活動年となりました。今年度からは 3 期生とともに毎回の管理活動を行いました。

年間の活動としては、これまで継続して行ってきたため池やハス田周辺の水辺の環境管理活動を中心に行いました。今年度からため池のかい掘りやハス掘りのイベントも再開し、今までの経験を活かしてイベントの補助にも協力していただきました。また毎月 1 回、環境管理活動以外に、樹木の観察活動も行いました。

◆水辺の環境管理作業

今年度は例年通り、5 月・6 月はアオミドロの除去とガマの刈り取りを中心に行いました。その他、

昨年に続き、アサザの移植作業を6月に行いました。今回はプラ舟に植えたアサザをため池にそのまま設置するという手法をとりました。やはりアメリカザリガニの食害の影響か、生育はあまりよくありませんが、活動のたびに気にしている様子が伺えました。

9月から2月にかけては、ハスの葉や花托の刈り取りなど、ハス田を中心とした作業を行いました。その他に、ため池の浮島に生えている樹木の剪定なども行いました。ガマの量が減ってきていることや、刈り取り後の植物の裁断方法を確立するなど、活動を通して自分達が行ってきた成果を実感できている様子が感じられました。

2期生の活動が今年度で終了することもあり、今まで以上に3期生や4期生にこれまでのノウハウを伝えながら作業をしていただきました。

◆樹木の定例観察

今年度も第2週目の活動の際に、園内の樹木観察を行いました。観察木はクスノキとし、定点写真撮影とその時期の様子を観察結果をワークシートに記入しました。クスノキはよく見かける樹木ですが、今まであまり気にしていなかった花や実、落葉の様子などをしっかり観察していました。観察をきっかけに、ボランティアさん同士の会話が盛り上がるなど、活動を行う前の雰囲気が和やかになりました。

(2) 3期生の活動とその成果（活動3年目）

3期生は今年度から実践期間に入り、2期生と共同で活動を行いました。管理作業の際は、作業ノウハウを2期生から学びながら行っていました。2期生と比較すると若い方が多く、力仕事の面では2期生から頼りにされている場面も見受けられました。次年度は2期生が活動を終了し、3期生が中心となって活動していくこととなります。

(3) 4期生の活動とその成果（活動1年目）

4月に2回実施した説明会に9名が参加しました。参加者全員が活動意思を表明し、9名で活動を行いましたが、年度の後半に1名が脱退し、8名となりました。参加者の特徴としては、区内在住者だけではなく区外からの参加者もいること、20代～60代と幅広い世代がいることが挙げられます。

ボランティア1年目となる今年度の講座では、ビオトープの全体像や、人間関係の重要性、自然の観察方法などを中心に学びました。講座への出席率もとても高く、次年度以降に向けても意欲的な態度が見られます。次年度は「自ら考えて計画を立てること」をテーマにした学習を進める予定です。

(4) 課題と展望

次年度の活動の中心となる3期生は、今年度まで中心となって活動してきた2期生よりも参加率は高いのですが、講座から実践期間へ移行すると参加メンバーが固定化されてきました。また働いている方も多く、仕事の都合で参加できない場合が多くあるため、次年度の年間計画を立てる際に、これまでよりも少ない参加者でも無理なく行える作業の計画を立てる必要があります。

表一 15 公園管理ボランティア2、3期生参加状況

実施日	テーマ	2期参加者	3期参加者	計
4月14日	ボランティア調整会準備	4	4	8
4月21日	アサザ移植検討会	5	6	11
5月12日	アオミドロ除去	2	4	6
5月29日	アオミドロ除去	4	2	6
6月9日	ハスの葉の刈り取り	2	2	4
6月16日	アサザ移植、ガマの刈取り	2	2	4
7月14日	カマ研ぎとガマ刈り	4	6	10
7月21日	他施設見学会	3	4	7
8月18日	ボランティア勉強会	3	4	7
9月8日	ため池のかいぼり打ち合せ	2	5	7
9月15日	ため池のかいぼり補助	3	4	7
10月13日	ハスの葉の刈り取り	4	4	8
10月20日	ハス掘り体験補助	3	5	8
11月10日	浮島の管理	4	5	9
11月17日	他施設見学会	3	1	4
12月8日	倉庫の整理、ため池の柳の剪定	2	5	7
12月15日	自主勉強会	3	5	8
1月12日	新年懇親会	4	4	8
1月19日	ウキヤガラの刈取り、巣箱の設置	2	4	6
2月9日	ため池水路の確保、堆肥の切り返し	2	3	5
2月16日	一年間の振り返り	3	4	7
3月9日	25年度活動計画作成	2	4	6
3月16日	ボランティア修了式	6	5	11
計23回		72	92	164

表一 16 公園管理ボランティア4期生参加状況

実施日	テーマ	参加者
4月21日	ボランティア説明会	8
4月26日	ボランティア説明会	1
5月12日	講座「ビオトープ公園を観察しよう」	9
6月9日	講座「身近な水辺の生きものを観察しよう」	8
7月14日	講座「身近な昆虫を観察しよう」	8
8月18日	ボランティア勉強会	4
9月8日	講座「水辺の環境管理について」	8
9月15日	ため池のかいぼり補助	3
10月13日	講座「身近な植物を観察しよう」	8
10月20日	ハス掘り体験補助	5
11月10日	講座「人間関係トレーニング」	8
11月17日	他施設見学会	2
12月8日	講座「身近な野鳥を観察しよう」	8
12月15日	自主勉強会	2
1月12日	新年懇親会	8
1月19日	OJT ウキヤガラの刈り取り	1
2月9日	講座「身近な土壌生物を観察しよう」	7
3月9日	講座「一年間の振り返り」	6
3月16日	ボランティア修了式	4
計19回		108

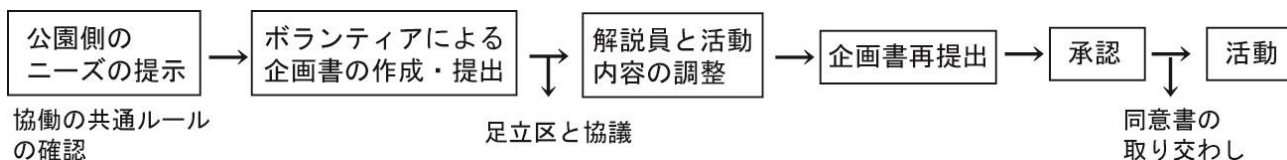
③ビオトープ公園サポーター制度

ビオトープ公園サポーター制度は、公園管理ボランティア修了者が気軽に参加できる新しい活動として行いました。具体的な活動内容は、しょうぶまつりなど、区内で行われる催し物での出張PRで行う公園紹介や、かい掘り体験などのプログラムの補助です。5年間の公園管理ボランティアで感じた公園の印象や魅力などを一般の方に伝える様子が印象的で、ボランティア修了後も公園に愛着を持っていただけている様子が伺えました。

次年度は、公園管理ボランティア1期生に加え2期生も加わり、より多くの方の活動が期待できます。

④提案型ボランティア制度

提案型ボランティア制度は、公園からの提案ではなく希望者からビオトープ公園の管理、運営に関わる新規の自主的活動を提案できる、公園管理ボランティア修了者向けの制度です。提案の後は、以下の流れで活動を作成します。



図一 8 提案型ボランティア活動開始までの流れ

平成24年度の活動はありませんでしたが、25年度は公園管理ボランティア2期生修了者の4名が、「にきの会」というグループを立ち上げ、サンクチュアリ内の通路整備を行う予定です。

⑤飛び込み型環境管理ボランティア

ザリガニ釣り制度は、園内の水辺で増えすぎた外来種のアメリカザリガニの数を少しでも減らすため、公園利用者の協力を得るための区民協働型事業です。参加希望者には、解説員カウンターで受付をしてもらい、釣りざお、バケツ、活動用の帽子を貸し出します。とれたザリガニは持ち帰らずに、全て解説員に引き渡してもらいます。その後ザリガニは足立区生物園へ搬送し、大型魚のエサとして利用してもらいました。

平成24年度の成果として、通年で3,904人の来園者が参加し、8,999匹のザリガニが駆除されました。

⑥ビオトープ公園ジュニアレンジャー

(1) ビオレンジャー活動について

ビオトープ公園ジュニアレンジャー（以下ビオレンジャー）は、ビオレンジャーとして登録した子どもにスタンプカードを作成し、レンジャー活動を行うごとにスタンプがたまっていく仕組みです。

今年度はビオレンジャー登録数が714名になり、上級レンジャーの登録数も増えました。特にビオトープ公園への理解が深いゴールドレンジャー以上の人数が増加し、来年度には最高レベルのプラチナレンジャーになる子どもが複数人出て来ると思われます。

今後は新規のプログラムを作成し、より子どもたちがビオトープ公園に興味を持ち継続して活動できるように取り組んでいきます。

表一17 レンジャー登録者数

レベル	22年度	23年度	24年度	増数
グリーン	405	574	652	78
シルバー	16	35	52	17
ゴールド	2	2	6	4
プラチナ	2	3	4	1
計	425	614	714	100

表一18 レンジャー活動一覧

	活動タイトル	活動内容
自然 調べ	シジュウカラの巣箱調べ	園内に設置しているシジュウカラの巣箱の使用状況を調査する
	アメリカザリガニ調べ	アメリカザリガニを採取し、オスメスの匹数や大きさを調べる
	ため池の鳥調べ	ため池にくる冬鳥の種類、数をカウントし、記録する
	ビオトープカルタを作ろう	毎月のお題に沿った俳句を作成する
	ビオトープ公園野草調べ	園内に咲いている野草の花を記録し、館内の展示に反映させる
	ショウリョウバッタ調べ	ショウリョウバッタを採取し、大きさを測定し、館内の展示に反映させる
解説員 の仕事 体験	水槽の掃除体験	館内の生体展示用水槽を清掃する
	パンフレット整理体験	館内で配布しているニュースレター等の配布物を整理する
	クラフト道具整理体験	色鉛筆など、館内のクラフトで使用される道具の整理を行う
	クラフト素材集め	プログラム等で使用するクラフトの材料となる木の実などを採集する
	飼育生物の餌やり体験	館内で飼育しているヒキガエルなどの餌となる小動物を採集する
	シイタケの水やり体験	サンクチュアリ内で育てているシイタケの原木に散水する

(2) 定例活動について

バイオレンジャー定例活動とは、グリーンレンジャー卒業試験に合格したシルバーレンジャー以上のバイオレンジャーのみが参加できる活動です。

昨年度から新たな取り組みとして始まったバイオレンジャー定例活動を今年度は定着させるため、4月から11月において月に1回、計8回実施しました。

ほぼ毎回参加するバイオレンジャーや内容ごとに参加するバイオレンジャーがあらわれ、それぞれの興味がある分野・やりたいことが少しずつ見えてきた様子でした。

次年度では一連のプログラムとしての流れを持たせながらも、単発的にも参加できるプログラムを用意したいと考えています。また、活動の周知によるさらなる参加者増、継続して参加する意欲を持たせられる内容を検討・実施していきます。

表一 19 定例活動一覧

	テーマ	参加人数
4月25日	園内の自然調査	3
5月26日	ミニビオトープ設置	7
6月23日	クイズ更新 ビオトープ観察	3
7月28日	展示制作	3
8月25日	クイズ更新 ビオトープ観察 メンテナンス	3
9月29日	丸太のエコスタックメン テナンス	1
10月27日	クイズ更新 草積みエコスタックのメ ンテナンス	2
11月24日	草積みエコスタックのメ ンテナンス 今年度のふりかえり	4
	計	26

5) 環境管理業務

①ビオトープの基本概念

ビオトープとは、BIO（生き物）＋TOP（場所・空間）で、「生物群集が生息できるように環境条件を備えた地域」と定義づけられます。

近年失われつつある里山環境を取り戻そうと、都市部や市街地にビオトープが設置されています。里山環境は、もともと人々の生活に密着することで作り出された二次的な自然であることを考え合わせると、多くのビオトープ活動は必然的に人の手による管理作業を伴うことが前提となります。

・環境の再現、生き物の呼び戻しをめざす。

ビオトープ活動では、安易に生き物を持ち込む（人為的に導入する）のではなく、「以前その場所に存在していた環境を再現し、以前にその場所に生息していた生き物を呼び戻し、それらが定着しやすいように環境の維持管理を行うこと」が原則です。

・生態系における生産者の繁栄をめざす。

生態系ピラミッドの頂点に位置する生き物の存続には、下位に位置する生き物の存在が不可欠です。当初から生態系ピラミッド上位の高次消費者の定着を考えるのではなく、生態系ピラミッドの根底に位置する生産者の繁栄を心がける必要があります。そして、さらに、その環境にあった生物が定着し、豊かな生態系が維持されるには、長い時間と多大な努力が必要です。

・外来種問題

「外来種」は「在来種」に対する言葉であり、海外から日本に持ち込まれた種だけを指すものではありません。気候的、地形的に隔てられた他地域の生き物は、外来種と位置付けられます。外来種の持ち込みは、自然状態では起こらない様々な問題を引き起こし、地域生態系のバランスを崩しかねません。そこで、対策として「侵入の予防」「早期発見と対策」「定着している場合は駆除・封じ込め」の検討が望まれます。

②当公園における環境管理の考え方

当公園は都市公園という性質上、「ビオトープ」であると同時に「公園」であることが求められており、これは環境管理を考える上での重要な要素になります。

環境管理においては、当公園を「ビオトープゾーン」と「公園ゾーン」に2分して考えています。

ビオトープとしての管理では、多様な生物の生育、生息に重点を置く必要があります。単一的ではなく多様な環境や植生区分がモザイク状に配置されることが理想的です。そのためビオトープゾーンの中を、さらに7つのゾーンに分け、それぞれに目標とする生態系を設定し、環境管理計画案を作成しました。

公園としての管理では、公園利用者にとって魅力的かつ安全に利用できる管理を優先する必要があります。区との協議の上「公園ゾーン」という分類を細分化し、「浄化施設北側斜面ゾーン」「芝生広場ゾーン」「外周ゾーン」「園路ゾーン」としました。

なお、各ゾーンの役割は完全に割り切るのではなく、ビオトープゾーンであっても公園的配慮を、公園ゾーンであってもビオトープ的配慮を相互に検討し、管理を行いました。

③実際の活動

環境管理作業については、①ビオトープの基本概念 ②当公園における環境管理の考え方 を踏まえて、平成 23 年度に作成した「桑袋管理チェックシート」をもとに、区職員と調整を重ねながら、作業を進めました。

当公園のビオトープとしての環境管理は、平成 23 年度に引き続き今年度も PDCA サイクル (PLAN→DO→CHECK→ACT) に基づいて行いました。PDCA サイクルを一貫して解説員が行うことで、ビオトープとしての景観を考慮した管理作業を行うことができました。管理作業自体がビオトープ公園の重要な解説素材となっており、ビオレンジャー活動などと連携した活動を行うことができました。また、来園者からの要望・意見を反映させやすく、来園者にとっても快適な空間となるよう配慮した管理を行いました。ゾーニングについては、園路を園路 (中央+縁)、園路 (バッファ)、園路 (林内)、園路 (ハス田) に分け、管理を行ないました。

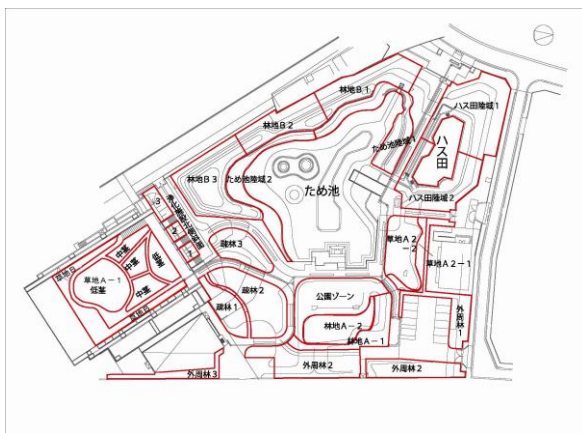
実際に行った環境管理作業の作業については、表-20 をご覧ください。

・植生管理作業

植生管理作業については、ゾーニングごとの草刈り作業のスケジュールを立て、平成 24 年度初めに「環境管理作業行程表」を作成しました。(表-20) これに基づいて、毎月環境管理計画の見直しを行いながら、作業を行いました。

水辺の植生管理については、主に公園管理ボランティアの活動として行いました。

また、今年度に行った実際の植生管理作業は表-20 の通りです。



※園内のゾーニングについては左図の通りとしました。ただし、舗装園路沿いを園路、ため池周囲の園路沿いから柵までを園路 (バッファ)、疎林内及び林地A内園路を園路 (林内)、ハス田周囲園路を園路 (ハス田) としました。

表-20 平成 24 年度 環境管理作業行程表

ゾーン名	管理手法	単位 作業 日数 (日)	作業工程の目安(回)												計	総 作 業 日 数 (日)	
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
草地A-1低葦草地	草地A-1低葦1	カマ+芝刈機	0.5	1	1	2	1	1	1	1						8	4.0
	草地A-1低葦2	芝刈機	0.5	1	1	2	1	1	1	1						8	4.0
	草地A-1園路	芝刈機	0.5	2	2	2	2	2	2	2					1	15	7.5
	草地A-1中葦1	刈払機	1.0		1										1	2	2.0
	草地A-1中葦2					1									1	2	2.0
草地A-1中葦3							1							1	2	2.0	
草地A-2	草地A-2(集会所1)	芝刈機	0.5			1									1	2	1.0
	草地A-2(集会所2)		0.5	1	2	1	2	1	1	1						9	4.5
公園ゾーン	公園ゾーン(旧A-2)	芝刈機	0.5	1	2	2	2	2	2	1						12	6.0
草地B	草地B1	刈払機+ノコギリ	1.0												1	1	1.0
	草地B2		1.0														
	草地B3		1.0														
	草地B4		1.0														
	草地B5(年1管理)		1.0												1	1	1.0
林地A	林地A1	カマ、刈払機	1.0			1										1	1.0
	林地A2		1.0							1						1	1.0
林地B	林地B1	カマ、刈払機	1.0					1					1			2	2.0
	林地B2		1.0					1				1				2	2.0
	林地B3		1.0					1				1				2	2.0
疎林	疎林1	カマ、刈払機	1.0		1		1									2	2.0
	疎林2		1.0		1			1								2	2.0
	疎林3		1.0			1					1					2	2.0
水辺(ため池)	水辺(ため池 水域)	カマ	—	公園ボランティア+管理系イベントで実施												0	—
	水辺(ため池陸域1)		0														
	水辺(ため池陸域2)		0														
水辺(ハス田)	水辺(ハス田 水域)	カマ	—	公園ボランティア+管理系イベントで実施												0	—
	水辺(ハス田陸域1)		1.0					1							1	2	2.0
	水辺(ハス田陸域2)		1.0				1		1						1	3	3.0
園路	園路(中央部+縁)	芝刈機(カマ)	1.0		1	1	1	1	1	1	1				1	7	7.0
	園路(ハッファ)	刈払機	0.5			1		1	1	1						4	4.0
	園路(林内)		0.5		1		1	1	1	1						4	2.0
	園路(ハス田)		0.5		1		1		1	1						3	1.5
外周林	外周林1	カマ、刈払機	1.0	1	1		1	1		1						5	5.0
	外周林2		1.0	区職員と協議の上適宜実施												—	—
	外周林3		1.0	区職員と協議の上適宜実施												—	—
浄化施設北側斜面	浄化施設北側斜面1	カマ	1.0			1	1	1		1						5	5.0
	浄化施設北側斜面2		1.0			1	1				1					3	3.0
	浄化施設北側斜面3		1.0			1	1		1		1					4	4.0
その他	その他(駐車場横植え込み)	カマ	0.5	1	1	1	1	1	1	1						7	14.0
	その他(集会場側門植え込み)		0.5	1	1	1	1	1	1	1						7	3.5
																103.0	

・外来生物の駆除

平成 21 年度より、区民協働型事業の一環として、来園者にアメリカザリガニの外来種としての問題を理解していただいたうえで、ザリガニの捕獲に協力してもらっています。

今年度は、年間で 8,999 匹のアメリカザリガニの駆除を行うことができました。前年度よりも約 1,500 匹捕獲数が増えていますが、ザリガニ駆除参加者数は前年度よりも少なくなっています。来園者によるザリガニ駆除は釣り方式で行なっており、この方式では小さなザリガニはほとんど捕獲されません。今まで釣りで捕獲されるほど大きくなかった個体が成長し、新たに捕獲され始めたために捕獲数の増加がおこったと考えられます。以上の理由により、潜在的なザリガニ生息数はまだ多く、ザリガニ捕獲事業の継続が必要と考えられます。前年度に引き続き捕獲したザリガニは、生物園の協力のもと大型魚などへのエサとして活用のほか、一部は館内の展示生体(クサガメなど)のエサとして活用しました。

ウシガエルについては、前年度に実施した幼体(オタマジャクシ)の駆除、トラップによる成体の駆除、卵塊の駆除を実施しました。幼体の駆除については前年度と同様の方法で行いましたが、捕獲数は約 450 匹に留まりました。前年度に実施した駆除作業により越冬した幼体が少なくなったこと、卵塊の

駆除により今年度に孵化した幼体が少なかったことが要因と考えられます。トラップによる駆除では40匹の成体を駆除することができました。人力で成体を捕獲するのは難しく、トラップによる捕獲は効率のいい駆除方法であると考えられます。卵塊駆除は現地職員により行われ、目視で卵塊を発見し手網で除去する方法で行われました。卵塊には多い場合で数万個の卵が含まれるため、非常に効率のいい駆除作業であるといえます。

・モニタリング調査

ビオトープ公園の環境がどのように遷移し、どのような生き物が定着するか、環境管理の効果測定として継続的なモニタリング調査を実施しました。適正な維持管理に生かすと共に、インタープリテーション活動を展開するための貴重な情報として利用することができました。

調査地 ①園内（ゾーン別）、②周辺緑地（大鷲神社）、③周辺水域（綾瀬川、毛長川、伝右川）

調査時期 H24年4月～H25年3月

調査内容 生物相調査 ビオトープ活動 before & after 調査、植物相調査、動物相調査、生物歴調査

相対照度と気温調査

水質調査 水温・D0・pH・透視度・全窒素・全リン・CODの測定

表ー21 平成24年度モニタリング調査回数

調査項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ビオトープ定点写真		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
植物相	木本								1					1
	草本	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	草本植生		1			1			1			1		4
動物相	鳥類	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	昆虫	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	哺乳類	日常業務内で適宜実施												
	魚類						1							1
	両生類	日常業務内で適宜実施												
	爬虫類	日常業務内で適宜実施												
	その他	日常業務内で適宜実施												
生物歴調査(100選)		日常業務内で適宜実施												
相対照度と気温		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
水質	透視度	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1	11
	溶存酸素	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1	11
	pH	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1	11
	全窒素	1			1			1			1			4
	リン	1			1			1			1			4
	水温	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1	11
周辺緑地	大鷲神社		1			1			1			1		4
周辺水域	綾瀬、伝右、毛長	1			1			1			1		4	

・桑袋ビオトープ公園みどころ100選

「桑袋ビオトープ公園みどころ100選（桑袋100選）」は、一般来園者が興味をもつ動植物および、環境指標となりうる動植物の生物暦を把握し、インタープリテーションや広報活動に活用することを目的に始めた園内の生物調査です。調査対象種は植物35種、動物62種、その他自然現象（霜柱・氷・真夏日）の計100種で、調査は解説員が日常的に行い、毎週末に情報の集約を行いました。

解説員全体で生物の情報を共有し表に記入することで来館者への解説活動に役立てることができました。今後も調査を継続していけばビオトープ公園ならではの生物暦を作るための重要な資料となっていくと思われます。

来年度も調査を継続し、収集した情報をデータ化してホームページ等広報にも活かしていきます。

6) 広報活動

「公園の認知度の低さ」が課題の一つである当公園では、より多くの区民に公園での活動を知っていただき、また来園のきっかけとするために、広報活動が重要と考えています。

ニュースレターなど印刷物による主に区内への情報発信、園外の様々なイベントでのPR活動、ホームページによる広域への情報発信、新聞・雑誌・TVなどメディアへの掲載につながる広報活動を行いました。

・印刷物による情報発信（ニュースレター、ポスター、チラシ）

昨年度発行していた足立区内の自然系施設（足立区生物園・都市農業公園・荒川ビジターセンター・桑袋ビオトープ公園）の4館のイベント情報を載せた「あだち自然の遊び場イベントガイド」が廃刊になり、今年度から当館でニュースレターを発行しました。

近隣小学校3校へは全児童へ配布したほか、区内の全住区センター、地域学習センターなど区内の各施設、隣接する草加市や八潮市の公共施設へ配布を行いました。

内容はA4表裏フルカラーで、表面にはイベントの実施情報、裏面には公園の自然紹介等を掲載しました。読みやすい紙面づくりを心掛け、写真やイラスト等を多用しました。「学校で配られたよ」「今月号の発行はいつ頃ですか？」など、子どもから大人まで楽しみにしている様子が伺えました。

また発展型イベントを中心にポスター・チラシを作成し、区庁舎アトリウム等に掲示、配布を行いました。ニュースレターは月3,500部と発行部数に限りがあるため、より多くの方が目にする場所に掲示、配布することは、大きな広報効果があると考えています。

表一22 ニュースレター掲載内容

掲載項目		内容
表	イベント情報	発行月の導入型イベント、また発展型イベントの募集情報を記載。
	4コママンガ	ビオトープに関係する内容で、楽しそうな雰囲気を出すよう表面に掲載しています。
裏	公園のみどころ紹介	発行前に見られた公園のとおきの自然を紹介しています。
	イベントレポート	公園で実施終了したイベントの様子を伝えています。
	ボランティア日記	ボランティア2期～4期の活動を紹介します。

・園外でのPR活動

今年度は、しょうぶまつり(しょうぶ沼公園)、こどもフェスタ(花畑地域学習センター)、地球環境フェア(区庁舎)、あだち自然体験デー(新田)、ふれあいまつり(花畑地域学習センター)、梅まつり(大谷田公園)に出展しました。

しょうぶまつり、あだち自然体験デー(新田)、梅まつり(大谷田公園)ではあだち自然の遊び場(足立区生物園・荒川ビジターセンター・桑袋ビオトープ公園・都市農業公園)の自然紹介やイベント紹介をするとともに、各館のパンフレットを配布しました。

各催し物では「名前は知っていて、一度は行ってみたいと思っている」という方も多く見受けられ、徐々に区内での認知度も上がってきていることを実感すると共に、今後も積極的に参加し、PR活動を行いたいと考えています。

出展状況(一部)

○地球環境フェア(足立区庁舎)

実施日時:10月27日(土)10:00~16:00、28日(日)10:00~16:00

1日目は634人(大人250人、小人384人)、2日目は334人(大人133人、小人201人)の対応となりました。2日目はあいにくの雨模様でしたが公園サポーターの方にも協力していただき、2日間で1,000人弱の方にPRすることができました。

生体展示を行ったクロベンケイガニや、土壌生物には、多くの子どもが触れ合い、生き物に対する興味の強さを感じました。また大人の方は園内の自然環境に関心を持たれる方が多く、遊びに行ってみようという声が多く聞かれました。

○ふれあいまつり(花畑地域学習センター)

実施日時:11月3日(土)、4日(日)10:00~16:00

昨年に引き続き、人通りの多い階段脇のスペースで公園紹介と、ドングリを使ったクラフトを実施しました。

1日目は178人(大人64人、小人114人)、2日目は342人(大人102人、小人240人)と2日間で対応人数が520人と昨年度(405人)よりも100人以上も多くの方に対応することができました。しかし「公園の名前は知っているが、行ったことがない」という声も多く、まだまだこうした近隣地域のイベントに参加しPRを行うことが必要だと感じました。

・区庁舎アトリウムでのポスター掲示

区庁舎アトリウムの入口掲示板にB1サイズのポスターの掲示を行いました。

今年度は「刈り草でつくろう!野草の紙すき体験」「ガマの葉でコースターづくり」「里山ビオトープ探検ツアー」「特別企画展示・はじめよう手のひらのビオトープ」「夜空の忍者コウモリを観察しよう」「ため池のかい掘り体験」「自然の素材でお花炭をつくろう」「使用済みの油で簡単!キャンドルづくり」「野鳥の足跡でペーパーウェイトづくり」「綾瀬川のんびり自然探訪」と、年間で10回掲示をしました。

区庁舎アトリウムでのポスター掲示は、多くの区民の方の目に触れるきっかけとなるため、集客に大きな効果があります。今後もこうした公共施設へのポスター掲示が可能か検討していきます。

・新聞、雑誌、TV、HP などメディアへの掲載

公園の認知度を高めるために、新聞、雑誌、TV、HPなどのメディアで取り上げてもらうことに重点を置いた活動を行いました。地域情報誌やケーブルテレビ足立などは、毎月のイベント情報提供・取材依頼やイベント情報告知や取材レポートの掲載をしていただきました（表—20）。

また公園開園から8年目を迎え、取り上げられる内容がイベント情報だけでなく、「ビオトープ」や「区民協働」など公園の特色や取組を特集した雑誌等の掲載依頼なども増えてきました。

今年度は報道広報課への情報発信が手薄になり、昨年度と比べると広域メディアに取り上げられる機会が少なかったように感じます。今後はより一層報道広報課や地域メディアとの連携をはかり、地域・広域メディア共に取り上げていただけるよう、効果的なプレスリリース文の作成などを積極的に行います。

表-23 取材対応一覧

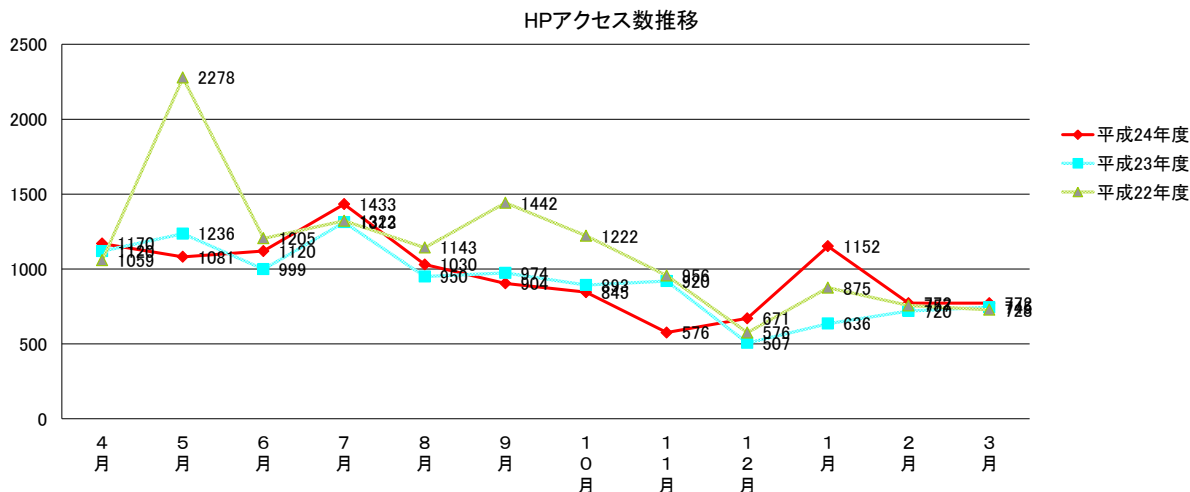
報道日	報道機関名	内容
毎月10日、25日	あだち広報	イベント案内、特集記事(あだち自然の遊び場)
毎月1日	花畑地域学習センター「フレンズ」	イベント案内
毎月15日	ニュースレター	イベント案内、公園の自然情報、ボランティア活
毎月	あだち学び情報館「まなぼー」(HP)	イベント案内
該当月	足立区HP	イベント案内、イベントカードラリー80対象イベ
4月24日	ケーブルテレビ足立「トピためっ！」	公園管理ボランティア4期生説明会
5月1日	ケーブルテレビ足立会員誌 JCNplus5月号「街	公園紹介
6月5日	足立朝日 情報スクランブル	イベント案内「クモの巣の標本づくり」「ガマの葉でコースターをつくろう」
11日	交通新聞社「散歩の達人/公園の時間」	公園紹介
17日	ケーブルテレビ足立「トピためっ！」	イベント紹介「クモの巣の標本づくり」
22日	子育て情報誌「まみたん」夏号	イベント紹介「ハスの葉であそぼう！」
7月1日	ケーブルテレビ足立会員誌 JCNplus8月号「街	イベント紹介「ザリガニ研究室へようこそ」
7月29日	産経新聞 エスマップ	あだち自然の遊び場「イベント手帳」紹介
8月1日	ケーブルテレビ足立会員誌 JCNplus9月号「街	イベント案内「ため池のかい掘り」
9月5日	足立朝日 情報スクランブル	イベント案内「ハスで染めよう！」
10月29日	エイ出版社「足立本」	公園紹介
12月5日	足立朝日 情報スクランブル	イベント案内「植物のハンコで年賀状をつくろう」「木の実で壁かけをつくってみよう」
2月15日	子育て情報誌「まみたん」春号	イベント案内「生きものサバイバルゲーム」
3月5日	足立朝日 情報スクランブル	イベント案内「野草のステンシルでハンカチづくり」「綾瀬川のんびり自然探訪」

・ホームページ

表ー 2 4 HP アクセス数推移

HPアクセス数推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成22年度	1059	2278	1205	1322	1143	1442	1222	956	576	875	757	728	13563
平成23年度	1120	1236	999	1313	950	974	893	920	507	636	720	745	11013
平成24年度	1170	1081	1120	1433	1030	904	845	576	671	1152	772	772	11526



過去3年間で比較すると今年度のHPアクセス数は、最も多かった平成22年度に続き2番目に多い年となりました。

コンテンツとしては、「イベント情報」を毎月更新しました。それ以外にも、不定期に「トピックス」のコーナーには、特にその時期の自然のみどころとなるものや、HP閲覧者の来園につながりそうな情報を掲載しました。

今年度からの変更点としては、桑袋の動植物に閲覧者がより理解と親しみを持てるように作成した「桑袋100選」の更新を行うとともに、その時々々の園内の旬の自然情報を掲載する「桑袋ナウ」を新規作成しました。

今後もインターネットの普及に伴って、HPの情報の重要性は高まると思われます。同時に携帯電話でのインターネット利用者の増加などの変化も生まれています。これらの動きに対応すると同時に、HP特有の情報更新の容易さ、迅速性などを踏まえたページ作りを検討する予定です。

・園内の自然情報「桑袋ナウ」のオープン

「桑袋ナウ」は、24年度から新設したページで、園内の自然情報を写真と簡単な文章で紹介するコンテンツです。頻繁に更新することで、HP閲覧者にその時々々の公園の自然情報を伝えることができます。

今後も週に1度の更新頻度で更新を行っていきます。

